

小学校
国語

平成**30**年度
全国学力・学習状況調査

報告書

児童生徒一人一人の学力・学習状況に応じた
学習指導の改善・充実に向けて

平成**30**年**7**月
文部科学省 国立教育政策研究所

目 次

1. 調査の概要	1
(1) 調査の目的	2
(2) 調査の対象とする児童生徒	2
(3) 調査事項及び手法	2
(4) 調査の方式	2
(5) 調査日時	2
(6) 集計児童生徒・学校数	3
(7) 調査結果の解釈等に関する留意事項	5
2. 教科に関する調査の結果（概要）	7
(1) 調査問題の趣旨・内容，課題等，指導改善のポイント	8
(2) 集計結果（正答等の状況）	10
(3) 知識に関する調査と活用に関する調査の相関等	14
(4) 地域の規模等の状況	15
(5) 都道府県・指定都市の状況	15
(6) 教育委員会の状況	16
(7) 学校の状況	16
(8) 国・公・私立学校の状況	17
3. 教科に関する調査の各問題の分析結果と課題	19
(1) 「3. 教科に関する調査の各問題の分析結果と課題」の見方	20
(2) 小学校 国語A	23
① 図書館への行き方を説明する	24
② 物語を創作する（宝物を探す物語）	26
③ オムレツの作り方を調べる	28
④ 物語を読み，心に残ったことを説明する（『くらやみの物語』）	32
⑤ 書いた文章を読み直す（春休みの出来事）	37
⑥ 慣用句の意味を理解し，使う	40
⑦ 敬語を使う	44
⑧ 文の中で漢字を使う	46
(3) 小学校 国語B	51
① 言葉の使い方を見直すために，話し合う	52
② 献立を推薦する文章を書く（「かみかみあえ」）	60
③ 伝記を読み，自分の考えをまとめる（湯川秀樹博士）	68

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査の対象とする児童生徒

【小学校調査】

小学校第6学年，義務教育学校前期課程第6学年，特別支援学校小学部第6学年

【中学校調査】

中学校第3学年，義務教育学校後期課程第3学年，

中等教育学校前期課程第3学年，特別支援学校中学部第3学年

(3) 調査事項及び手法

① 児童生徒に対する調査

ア 教科に関する調査〔国語，算数・数学，理科〕

国語，算数・数学はそれぞれ「主として『知識』に関する問題」（A）※¹と「主として『活用』に関する問題」（B）※²を出題。

理科は「主として『知識』に関する問題」と「主として『活用』に関する問題」を一体的に出題。

※1：身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や，実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など

※2：知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や，様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力など

イ 質問紙調査

学習意欲，学習方法，学習環境，生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施。

② 学校に対する質問紙調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査を実施。

(4) 調査の方式

悉皆調査

(5) 調査日時

平成30年4月17日（火）

【小学校調査】

1 時限目	2 時限目	3 時限目	4 時限目	
国語A，算数A (各 20 分)	国語B (40 分)	算数B (40 分)	理科 (40 分)	児童質問紙 (20～40 分程度)

【中学校調査】

1 時限目	2 時限目	3 時限目	4 時限目	5 時限目	
国語A (45 分)	国語B (45 分)	数学A (45 分)	数学B (45 分)	理科 (45 分)	生徒質問紙 (20～45 分程度)

(6) 集計児童生徒・学校数

① 集計基準

児童生徒に対する調査について、平成 30 年 4 月 17 日に実施された教科に関する調査及び質問紙調査の結果を集計。学校に対する質問紙調査については、在籍する児童生徒が調査を実施した学校の結果を集計。

② 集計児童生徒数

(小学校第 6 学年，義務教育学校前期課程第 6 学年，特別支援学校小学部第 6 学年)

	調査対象児童数※1	4月17日に調査を実施した児童数※2	【参考】 4月17日～5月1日に調査を実施した児童数
公立	1,058,472人	1,030,031人	1,036,823人
国立	6,509人	6,399人	6,426人
私立	12,949人	6,990人	7,036人
合計	1,077,930人	1,043,420人	1,050,285人

(中学校第 3 学年，義務教育学校後期課程第 3 学年，
中等教育学校前期課程第 3 学年，特別支援学校中学部第 3 学年)

	調査対象生徒数※1	4月17日に調査を実施した生徒数※2	【参考】 4月17日～5月1日に調査を実施した生徒数
公立	1,018,983人	967,196人	969,962人
国立	10,731人	9,988人	10,444人
私立	80,271人	30,906人	31,479人
合計	1,109,985人	1,008,090人	1,011,885人

※1 調査対象児童生徒数について、公立・国立は、調査実施前に学校から申告された児童生徒数、私立は、平成 29 年度学校基本調査による。調査当日までの転入出等により増減の可能性がある。

※2 調査を実施した児童生徒数は、回収した解答用紙が最も多かった教科の解答用紙の枚数で算出。

③ 集計学校数

(小学校, 義務教育学校前期課程, 特別支援学校小学部)

	調査対象者の 在籍する学校 数	4月17日に調査を 実施した学校数 (実施率%)	【参考】 4月18日～5月1日 に調査を実施し た学校数	【参考】 4月17日～5月1日 に調査を実施した学校 数 (実施率%)
公立	19,433校	19,386校 (99.8%)	35校	19,421校 (99.9%)
国立	75校	75校 (100.0%)	0校	75校 (100.0%)
私立	225校	122校 (54.2%)	1校	123校 (54.7%)
合計	19,733校	19,583校 (99.2%)	36校	19,619校 (99.4%)

(中学校, 義務教育学校後期課程, 中等教育学校前期課程, 特別支援学校中学部)

	調査対象者の 在籍する学校 数	4月17日に調査を 実施した学校数 (実施率%)	【参考】 4月18日～5月1日 に調査を実施し た学校数	【参考】 4月17日～5月1日 に調査を実施した学校 数 (実施率%)
公立	9,630校	9,597校 (99.7%)	18校	9,615校 (99.8%)
国立	80校	77校 (96.3%)	3校	80校 (100.0%)
私立	763校	366校 (48.0%)	4校	370校 (48.5%)
合計	10,473校	10,040校 (95.9%)	25校	10,065校 (96.1%)

(7) 調査結果の解釈等に関する留意事項

本調査は、幅広く児童生徒の学力や学習状況等を把握することなどを目的として実施しているが、実施教科が国語、算数・数学、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものではないことなどから、本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であること、学校における教育活動の一側面に過ぎないことに留意することが必要である。

本調査の結果においては、国語A、国語B、算数・数学A、算数・数学B、理科ごとの平均正答数、平均正答率等の数値を示しているが、平均正答数、平均正答率のみならず、中央値、標準偏差等の数値や分布の状況を表すグラフの形状など他の情報と合わせて総合的に結果を分析、評価することが必要である。また、個々の設問や領域等に着目して学習指導上の課題を把握・分析し、児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることも重要である。

<用語説明>

語 句	説 明
平均正答数	児童生徒の正答数の平均。
平均正答率	平均正答数を百分率で表示。 ○国語A、国語B、算数・数学A、算数・数学B、理科ごとの平均正答率は、それぞれの平均正答数を設問数で割った値の百分率（概数）。 ○学習指導要領の領域、評価の観点、問題形式、設問ごとの平均正答率は、それぞれの正答児童生徒数を全体の児童生徒数で割った値の百分率。
中央値	集団のデータを大きさの順に並べた時に真ん中に位置する値。 平均値とともに集団における代表値として捉えられる。
最頻値	集団のデータにおいて、最も多く現れる値。
標準偏差	集団のデータの平均値からの離れ具合（散らばりの度合い）を表す数値。標準偏差が0とは、ばらつきがない（データの値が全て同じ）ことを意味する。
相関係数	二つの変数間の関係の程度を一つの数値で表す指標。相関係数は-1から1までの範囲の値をとり、1に近いほど正の相関、-1に近いほど負の相関が強いことを表す。
解答類型	各設問についての正答、予想される誤答などの解答状況を分類し整理したもの。

2. 教科に関する調査の結果（概要）

(1) 調査問題の趣旨・内容、課題等、指導改善のポイント

○調査問題の趣旨・内容

国語A 基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題

(例) ■ 相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて、事例などを挙げながら筋道を立てて話す。

- 自分の想像したことを物語に表現するために、文章全体の構成の効果を考える。
- 登場人物の心情について、情景描写を基に捉える。
- 文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書く。
- 相手や場面に応じて適切に敬語を使う。

国語B 基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題

(例) ■ 話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる。

- 目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書く。
- 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む。

○課題等

主な特徴

- 相手や目的に応じ、事例などを挙げながら筋道を立てて話すことや、慣用句の意味を理解し、使うことについてはできている。〔A¹、A⁶〕
- 主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書くことに課題がある。〔A⁵〕
- 話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめることに課題がある。〔B¹三〕
- 複数の資料の内容を関係付けて理解したり、表現したりすることに課題がある。〔B²二、B³一〕

話すこと・聞くこと

◇(A) 相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて、事例などを挙げながら筋道を立てて話すことはできている。〔A¹〕

◆(B) 話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめることに課題がある。〔B¹三〕

書くこと

◆(B) 目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書くことに課題がある。〔B²二〕

読むこと

◆(B) 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読むことに課題がある。〔B³一〕

◆(B) 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むことに課題がある。〔B³二〕

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

◇(A) 日常生活で使われている慣用句の意味を理解し、使うことはできている。〔A⁶〕

◆(A) 文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書くことに課題がある。〔A⁵〕

◆(A) 相手や場面に応じて適切に敬語を使うことに課題がある。〔A⁷〕

◆(A) 今回出題した漢字について、文の中で正しく使うことに課題があるものがある。〔A⁸エ、オ〕

◇…比較的できている点 ◆…課題のある点 ()内の記号は、A…国語A、B…国語B

[]内の記号は、問題番号

○指導改善のポイント

話すこと・聞くこと

○ 相手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる指導の充実

- 相手の意図を捉えながら聞くためには、自分に伝えたいことは何か、共に考えたいことは何かなど、話の内容を十分に聞き取ることが大切である。また、相手と自分の意見を比べて考えを述べるためには、どこが共通するのか、どのような点が違うのかなどを、具体的に明示しながらまとめて話することができるように指導することが大切である。特に、公開討論の形式などのような話し合いの場合には、話し手は話題について十分に調べ、自分の考えを形成しているのに対し、聞き手の準備が不十分であることが見受けられる場合もある。学習の場面では、話し手と聞き手が共に自分の考えをもって話し合いに臨むことができるような指導が重要となる。

書くこと

○ 構成の効果を考えて、物語を創作する指導の充実

- 物語を創作する際には、読者が展開に期待をもって読むことができる構成を考えて書くことが大切である。効果的な構成を工夫するためには、これまでに読んできた物語を構成という観点で読み返し、それぞれの特徴とその効果を整理するなど、読むことの学習との関連を図ることが有効である。構成を工夫することのよさや大切さを自覚し、自身の作品に生かしていくことができるように指導することが大切である。

○ 目的や意図に応じ、複数の資料から適切な内容を取り上げて、詳しく書く指導の充実

- 自分の考えたことや伝えたいことが相手に十分に伝わるように書くためには、複数の資料から情報を得て、詳しく書くことが必要となる場合がある。その際、得られた情報の中から目的や意図に応じて適切な内容を選択したり、関係付けて捉えたりすることが大切になる。また、情報の何をどのように取り上げて、詳しく書けば効果的であるかを整理して書くことができるように指導することが大切である。

読むこと

○ 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読む指導の充実

- 目的に応じて、複数の本や文章を読み重ねたり、読み比べたりするなど、効果的な読み方を選択して活用することは重要である。伝記には様々なものがあり、同じ人物の伝記であっても、複数の本を選んで読むことで、取り上げられた人物の生き方や人生などをより深く知ることができるということについて指導することが大切である。また、人物の生き方や考え方、その偉業を意味付けるといった点から、同じ本の中でも、事実の記述や説明の表現が一つではなく複数用いられていることが多い。それらを結び付けながら読む指導も大切である。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

○ 文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書く指導の充実

- 主語と述語は、文の骨格をなすものであり、明確な文を書く上で最も基礎となるものである。主語と述語との照応関係が大切であることについて、文章を読んだり表現したりするときに強く意識できるように指導する必要がある。具体的には、児童が自ら主語と述語が照応していないことに気付き、正しく書く必要性を実感できるよう、他者に向けて話したり、目的や相手を明確にした実用的な文章を書いたりする学習での指導が考えられる。

○ 相手や場面に応じて適切に敬語を使う指導の充実

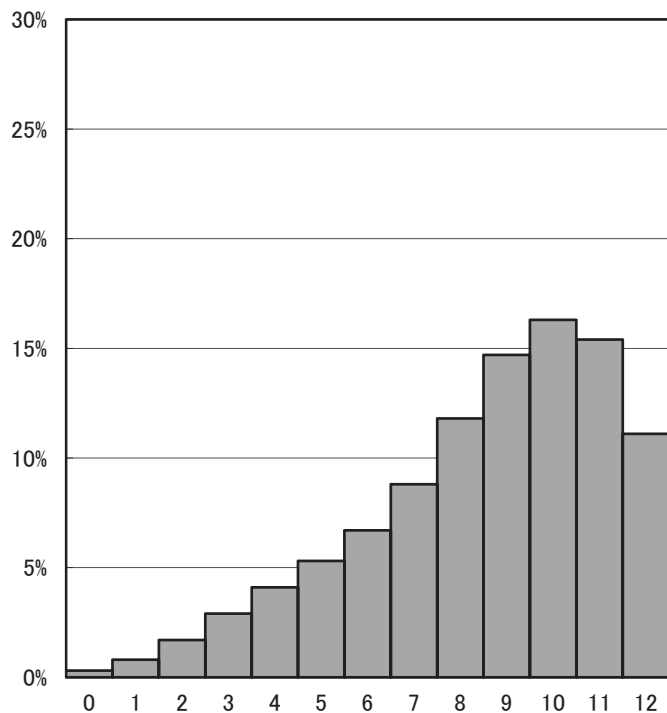
- 高学年は、敬語の役割や必要性を自覚してくる時期であるため、相手や場面に応じて適切な敬語を使うことに慣れるようにすることが重要である。日常生活の具体的な場面と関連させ、いつ、どのようなときに、誰に対してどのような敬語を使うことが適切であるかを考えるなど、児童が自覚的に敬語を使用することができるような指導が大切である。

(2) 集計結果（正答等の状況）

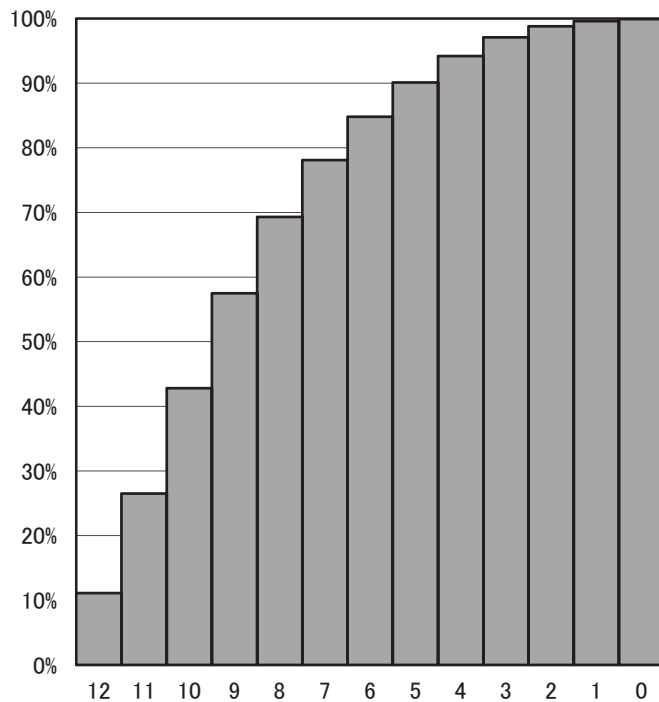
【国語A】

児童数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差	最頻値
1,043,413 人	8.5 問/12 問	70.9%	9.0 問	2.7	10 問

正答数分布グラフ（横軸：正答数，縦軸：児童の割合）



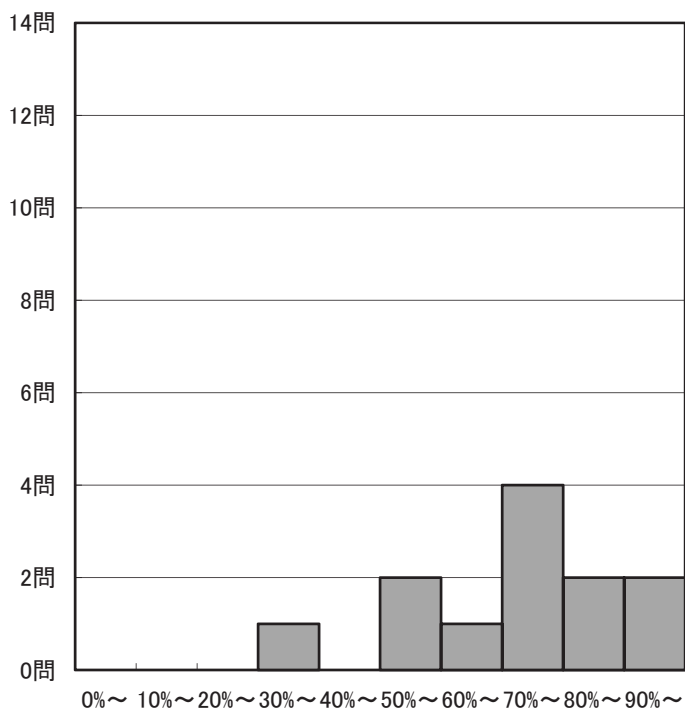
正答数累積グラフ（横軸：正答数，縦軸：累積割合）



分類・区分別集計結果

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率 (%)
学習指導 要領の 領域等	話すこと・聞くこと	1	90.9
	書くこと	1	73.9
	読むこと	2	74.1
	伝統的な言語文化と国語の 特質に関する事項	8	67.2
評価の 観点	国語への関心・意欲・態度	0	
	話す・聞く能力	1	90.9
	書く能力	1	73.9
	読む能力	2	74.1
	言語についての知識・理解・技能	8	67.2
問題形式	選択式	11	74.1
	短答式	1	35.8
	記述式	0	

正答率別問題数（横軸：正答率，縦軸：問題数）



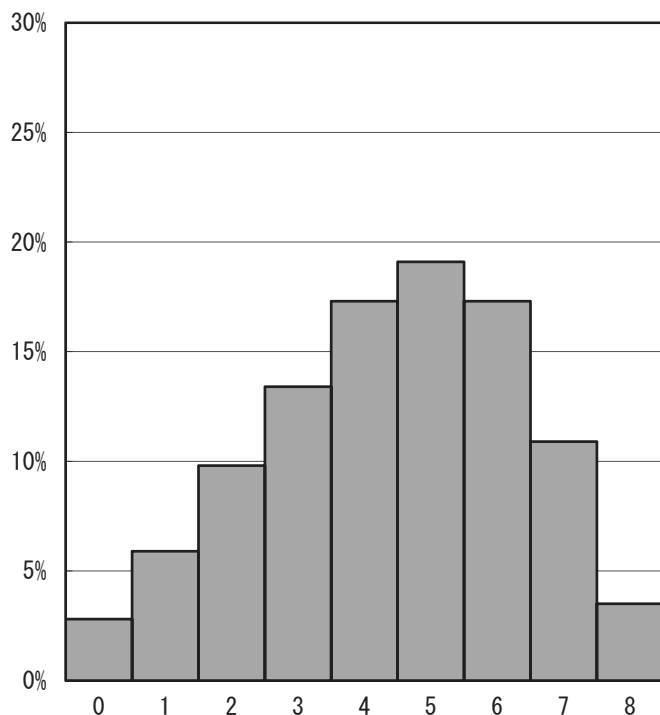
問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				評価の観点				問題形式			正 答 率 （％）	無 解 答 率 （％）	
			話 す こ と ・ 聞 く こ と	書 く こ と	読 む こ と	伝 統 的 な 言 語 文 化 と 国 語 の 特 質 に 関 する 事 項	国 語 へ の 関 心 ・ 意 欲 ・ 態 度	話 す ・ 聞 く 能 力	書 く 能 力	読 む 能 力	言 語 に つ い て の 知 識 ・ 理 解 ・ 技 能	選 択 式	短 答 式			記 述 式
1	図書館への行き方の説明として適切なものを選択する	相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて、事例などを挙げながら筋道を立てて話す	3・4 イ					○				○			90.9	0.1
2	物語を書くときの構成の工夫の説明として適切なものを選択する	自分の想像したことを物語に表現するために、文章全体の構成の効果を考える		5・6 イ					○			○			73.9	0.3
3	【オムレツを作ったあとの感想】を踏まえ、【オムレツのページ】をどのように読めばよいか、適切なものを選択する	目的に応じて必要な情報を捉える			3・4 イ					○		○			74.1	0.2
4	『くらやみの物語』を読んで心に残ったことを一文を取り上げて説明する際に、その一文が心に残った理由として適切なものを選択する	登場人物の心情について、情景描写を基に捉える			5・6 エ					○		○			74.1	0.3
5	【春休みの出来事の一部】の中で、----- 部と----- 部とのつながりが合っていない文を選択し、正しく書き直す	文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書く				3・4 (1)イ (キ)					○		○		35.8	3.8
6	慣用句の意味と使い方として適切なものを選択する（心を打たれる）	日常生活で使われている慣用句の意味を理解し、使う				3・4 (1)ア (イ)					○	○			90.5	1.4
7	【話を聞いている様子の一部】の□ア□，□イ□に入る内容の組み合わせとして適切なものを選択する	相手や場面に応じて適切に敬語を使う				5・6 (1)イ (ク)					○	○			56.3	2.6
8ア	文の中で漢字を使う（せい造）	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う				5・6 (1)ウ (ア)					○	○			73.6	5.1
8イ	文の中で漢字を使う（せつ備）					5・6 (1)ウ (ア)					○	○			82.3	6.2
8ウ	文の中で漢字を使う（しょう毒）					5・6 (1)ウ (ア)					○	○			82.3	6.5
8エ	文の中で漢字を使う（かん理）					5・6 (1)ウ (ア)					○	○			65.1	7.3
8オ	文の中で漢字を使う（せつ極的）					5・6 (1)ウ (ア)					○	○			51.7	7.7

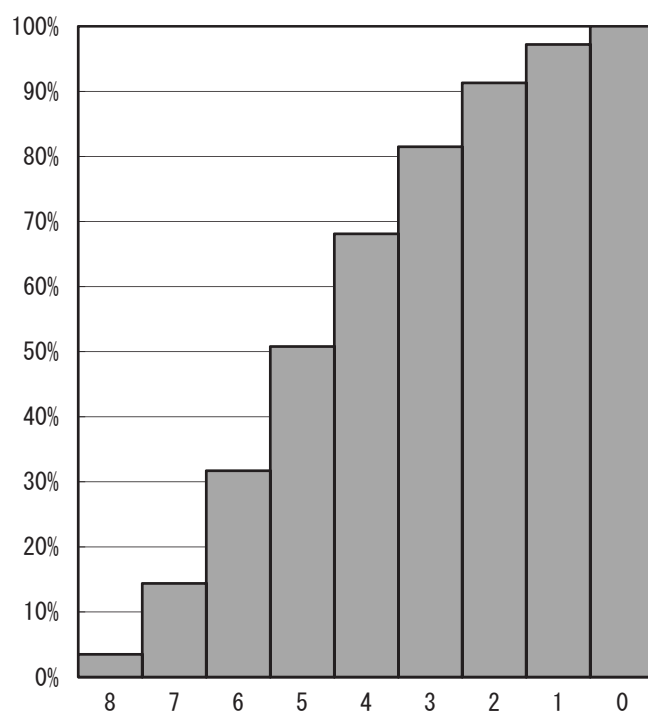
【国語B】

児童数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差	最頻値
1,043,185 人	4.4 問/8 問	54.8%	5.0 問	1.9	5 問

正答数分布グラフ（横軸：正答数，縦軸：児童の割合）



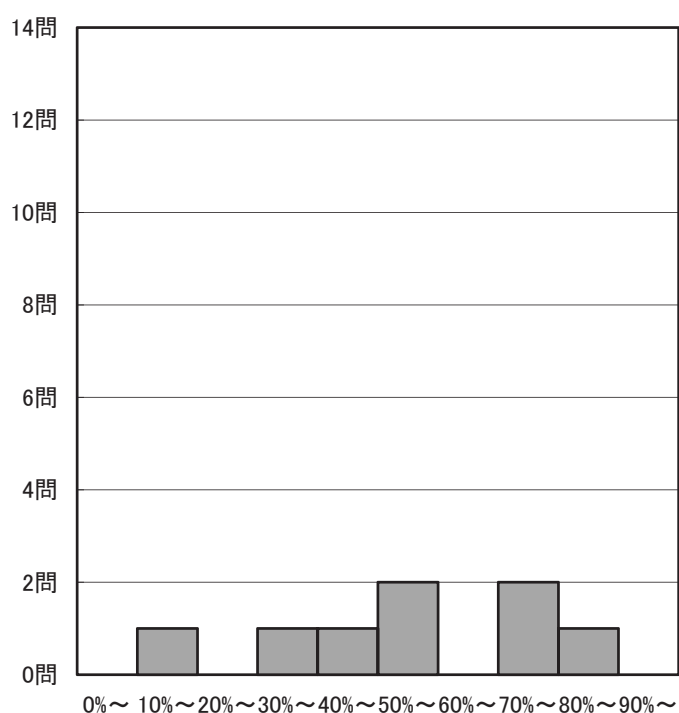
正答数累積グラフ（横軸：正答数，縦軸：累積割合）



分類・区分別集計結果

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率 (%)
学習指導 要領の 領域等	話すこと・聞くこと	3	64.7
	書くこと	5	45.7
	読むこと	2	51.0
	伝統的な言語文化と国語の 特質に関する事項	0	
評価の 観点	国語への関心・意欲・態度	3	33.3
	話す・聞く能力	3	64.7
	書く能力	5	45.7
	読む能力	2	51.0
	言語についての知識・理解・技能	0	
問題形式	選択式	5	67.7
	短答式	0	
	記述式	3	33.3

正答率別問題数（横軸：正答率，縦軸：問題数）



問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				評価の観点				問題形式			正答率（％）	無解答率（％）	
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式			記述式
1 一	【話し合いの様子の一部】における木村さんの発言の意図として、適切なものを選択する	話し合いの参加者として、質問の意図を捉える	5・6 オ					○				○			82.6	0.4
1 二	【話し合いの様子の一部】における司会の発言の役割として、適切なものを選択する	計画的に話し合うために、司会の役割について捉える	5・6 オ					○				○			77.7	0.5
1 三	これから言葉をどのように使っていきたいかについて、北川さん、小池さんのいずれかの意見を取り上げ、 <input type="text"/> を書く	話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる	5・6 エ	5・6 ウ			○	○	○					○	33.9	6.2
2 一	「かみかみあえ」についての【おすすめする文章】の最初の部分に <input type="text"/> のように書いた理由として適切なものを選択する	目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考える	5・6 イ						○			○			57.8	1.7
2 二	【おすすめする文章】の <input type="text"/> に、むし歯を防ぐ効果について、【保健室の先生の話から分かったこと】を取り入れて詳しく書く	目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書く	5・6 ウ				○		○					○	13.5	2.6
2 三	【紹介する文章】を基にして【おすすめする文章】を書くときの工夫として適切なものを選択する	推薦するためには、他のものと比較して書くことで、よさが伝わることを捉える	5・6 ウ						○			○			70.9	3.4
3 一	山下さんは、どのようなことが知りたくて【自伝「旅人」の一部】を読んだのか、その説明として適切なものを選択する	目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読む			5・6 イ					○		○			49.6	3.2
3 二	【伝記「湯川秀樹」の一部】を読んで、【ノートの一部】 <input type="text"/> 最も心がひかれた一文とその理由の文章の <input type="text"/> に入る内容を書く	目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む	5・6 ウ	5・6 ウ			○		○	○				○	52.5	11.8

(3) 知識に関する調査と活用に関する調査の相関等

■国語Aと国語Bの相関等

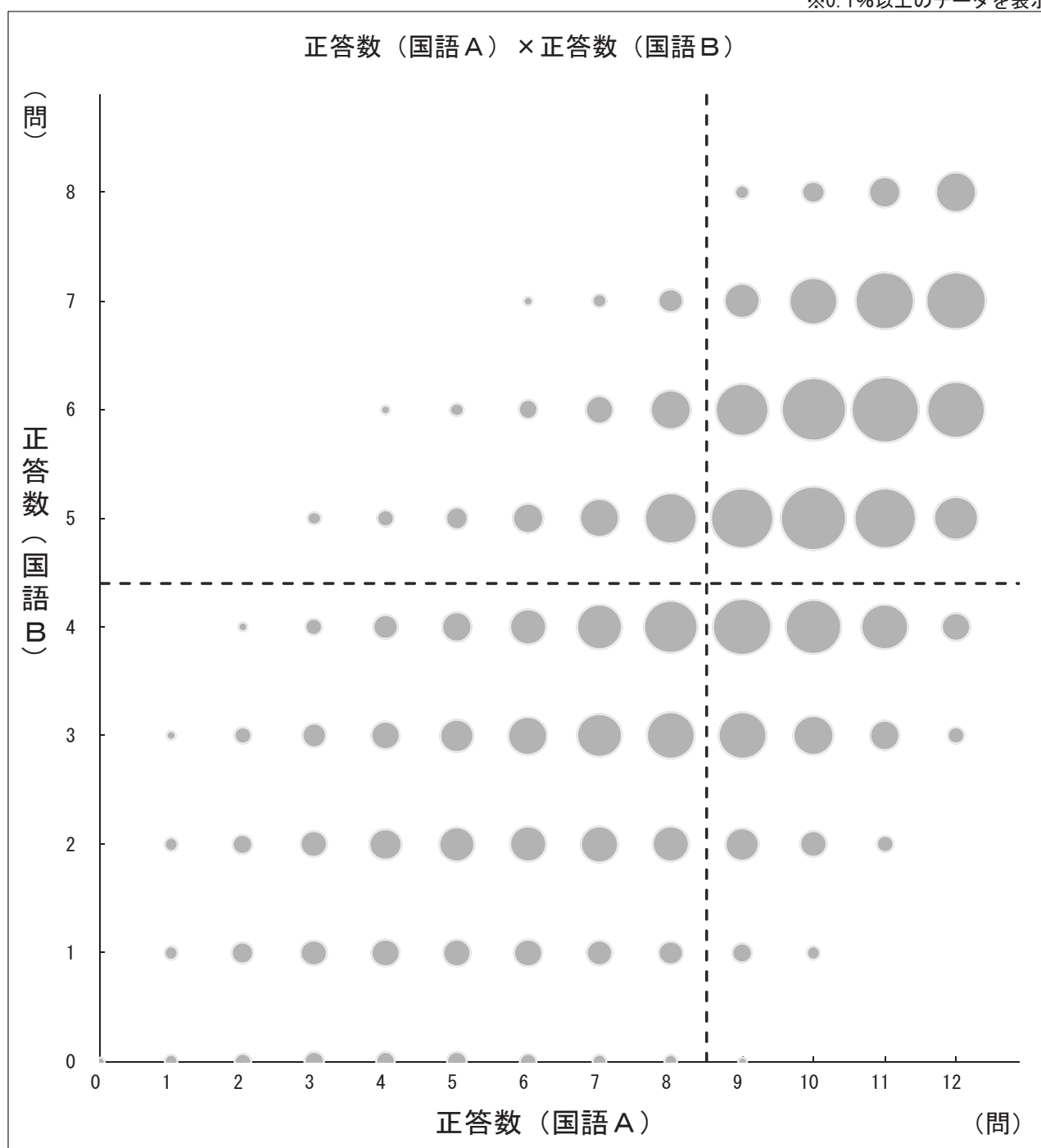
- 小学校において、国語Aと国語Bの正答数に、相関（相関係数0.615）が見られる。
- 「国語Aは平均以上」かつ「国語Bは平均未満」の児童の割合は17.1%、「国語Aは平均未満」かつ「国語Bは平均以上」の児童の割合は10.3%となっている。

国語Aの正答数、国語Bの正答数、正答児童数の相関をバブルチャートに表したものの。

※ バブルチャート：2軸の座標軸の上に、大きさが3軸目の指標を示す円状の図（バブル）を配置した図表。

児童数	全国（国公立） 国語A平均正答数	全国（国公立） 国語B平均正答数	児童の正答数分布状況（上段：児童数 下段：児童数の割合（%））				相関係数
			国語A・国語B ともに平均以上	国語Aは平均以上 国語Bは平均未満	国語Aは平均未満 国語Bは平均以上	国語A・国語B ともに平均未満	
1,038,376	8.5	4.4	421,360	177,434	107,109	332,473	0.615
			40.6	17.1	10.3	32.0	

※0.1%以上のデータを表示

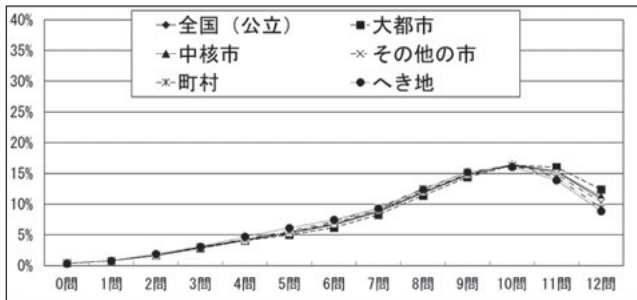


※グラフの点線は、全国（国公立）の平均正答数を表す。

(4) 地域の規模等の状況

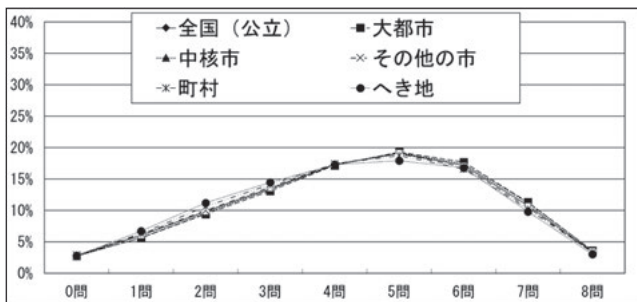
○ 平均正答数、平均正答率、中央値、標準偏差を見ると、29 年度同様、地域の規模等（公立：大都市、中核市、その他の市、町村、へき地）による大きな差は見られない。

[国語 A] 正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：児童の割合）



	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
全国（公立）	1,030,025	8.5 / 12	70.7	9.0	2.7
大都市	275,037	8.6 / 12	71.6	9.0	2.7
中核市	173,993	8.5 / 12	71.0	9.0	2.7
その他の市	491,453	8.4 / 12	70.3	9.0	2.7
町村	89,204	8.4 / 12	69.9	9.0	2.6
へき地	17,479	8.3 / 12	69.1	9.0	2.7

[国語 B] 正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：児童の割合）



	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
全国（公立）	1,029,799	4.4 / 8	54.7	5.0	1.9
大都市	274,997	4.4 / 8	55.4	5.0	1.9
中核市	173,950	4.4 / 8	55.2	5.0	1.9
その他の市	491,332	4.3 / 8	54.3	4.0	1.9
町村	89,186	4.3 / 8	53.8	4.0	1.9
へき地	17,476	4.2 / 8	53.1	4.0	1.9

※大都市（政令指定都市及び東京 23 区）、中核市、その他の市、町村の値は、当該地方公共団体の教育委員会が設置管理する公立学校に在籍する児童の調査結果（正答数）を集計したものである（都道府県立学校は含まない）。

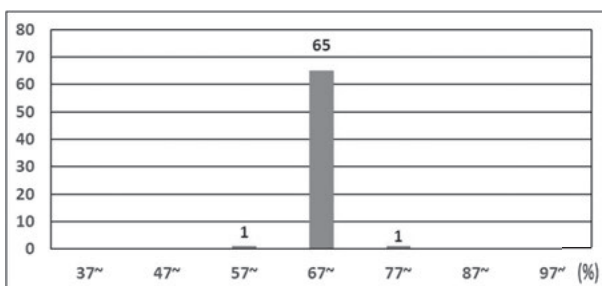
※へき地の値は、へき地教育振興法及び各都道府県の条例（規則）によって指定された学校に在籍する児童の調査結果を集計したものである。大都市、中核市、その他の市、町村の値に重複する。

(5) 都道府県・指定都市の状況

○ 各都道府県・指定都市（公立）の状況については、平均正答率を見ると、29 年度同様、ほとんどの都道府県・指定都市が平均正答率の±5%の範囲内にあり、大きな差は見られない。

[国語 A]

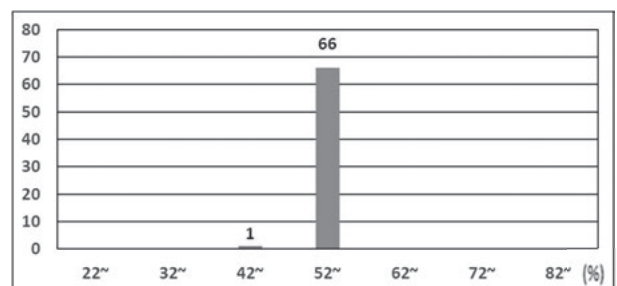
正答率分布グラフ（横軸：平均正答率、縦軸：都道府県・指定都市数）



全国（公立）の平均正答率	全都道府県市（公立）中、最高平均正答率【全国との差】	全都道府県市（公立）中、最低平均正答率【全国との差】
71%	77% 【+6%】	66% 【-5%】

[国語 B]

正答率分布グラフ（横軸：平均正答率、縦軸：都道府県・指定都市数）



全国（公立）の平均正答率	全都道府県市（公立）中、最高平均正答率【全国との差】	全都道府県市（公立）中、最低平均正答率【全国との差】
55%	61% 【+6%】	51% 【-4%】

※都道府県は指定都市を除く。全国（公立）の平均正答率は整数値で表示している。

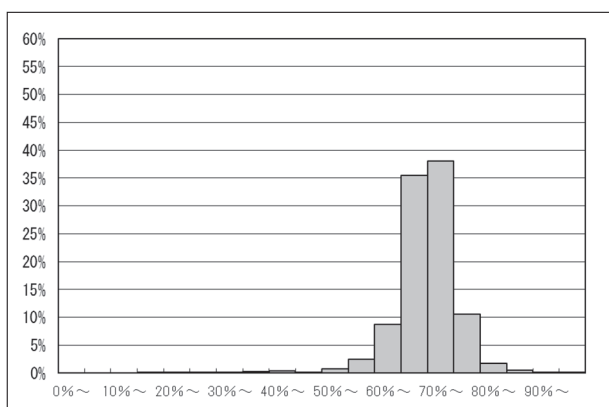
(6) 教育委員会の状況

○ 各教育委員会の状況については、全国平均からの離れ具合を表す平均正答率の標準偏差を見ると、29年度同様、全体としてはそれほど大きなばらつきは見られない。

[国語A]

教育委員会数	教育委員会の平均正答数	教育委員会の平均正答率(%)	教育委員会の中央値(%)	教育委員会の標準偏差
1,785	8.3 / 12	69.6	70.1	6.4

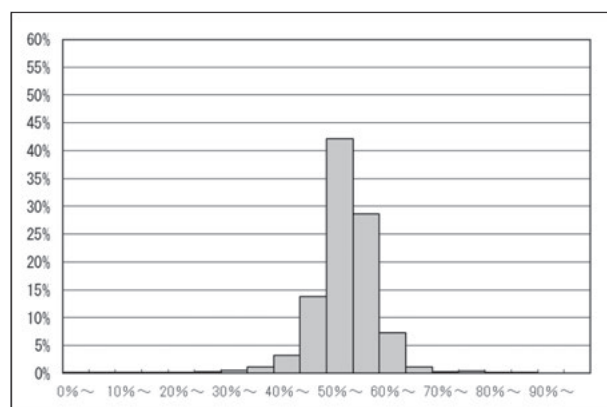
正答率分布グラフ（横軸：平均正答率，縦軸：教育委員会の割合）



[国語B]

教育委員会数	教育委員会の平均正答数	教育委員会の平均正答率(%)	教育委員会の中央値(%)	教育委員会の標準偏差
1,785	4.3 / 8	53.4	53.7	6.8

正答率分布グラフ（横軸：平均正答率，縦軸：教育委員会の割合）



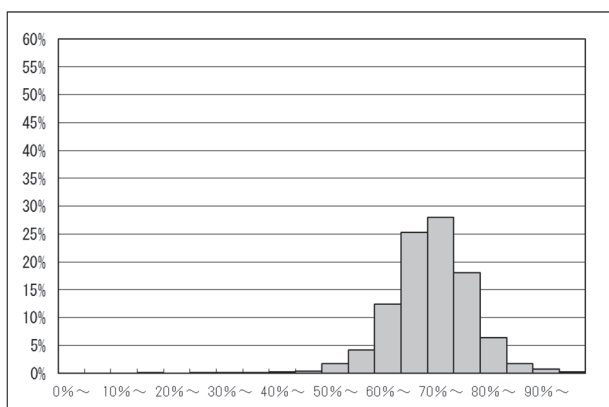
(7) 学校の状況

○ 各学校の状況については、全国平均からの離れ具合を表す平均正答率の標準偏差を見ると、29年度同様、全体としてはそれほど大きなばらつきは見られない。

[国語A]

学校数	学校の平均正答数	学校の平均正答率(%)	学校の中央値(%)	学校の標準偏差
19,583	8.5 / 12	70.5	70.8	8.2

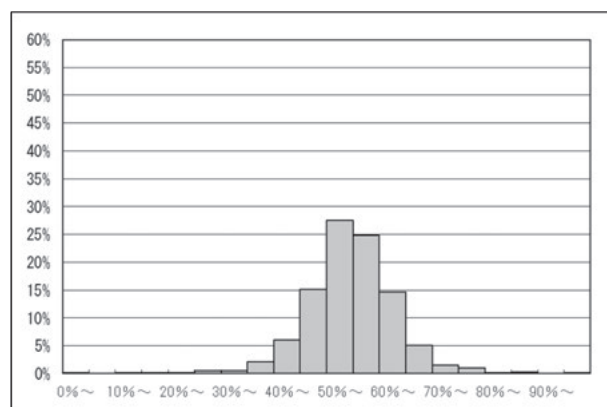
正答率分布グラフ（横軸：平均正答率，縦軸：学校の割合）



[国語B]

学校数	学校の平均正答数	学校の平均正答率(%)	学校の中央値(%)	学校の標準偏差
19,580	4.4 / 8	54.5	54.5	8.6

正答率分布グラフ（横軸：平均正答率，縦軸：学校の割合）

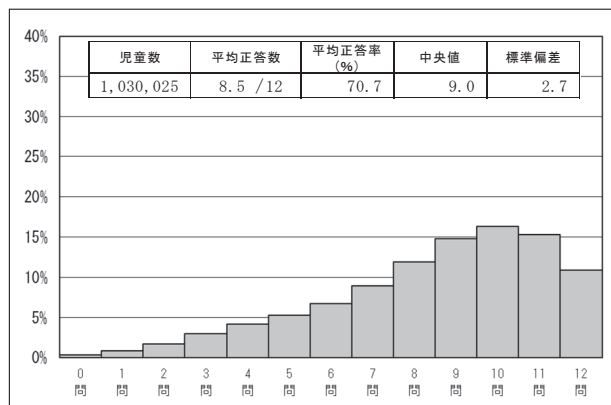


(8) 国・公・私立学校の状況

○ 国立・私立学校は一般的に入学者選抜を行っていることに留意する必要があるが、平均正答数について見ると、29年度同様、国立・私立学校は、公立学校を上回っている。

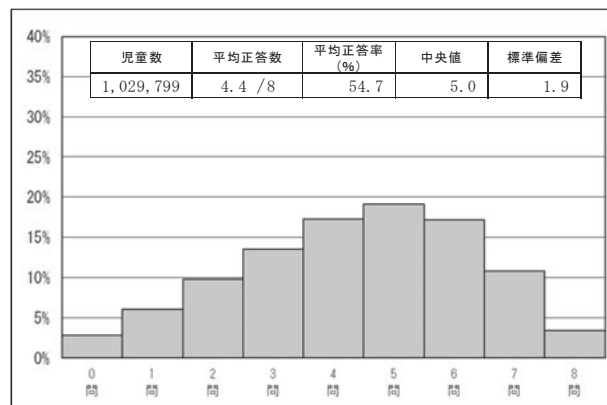
[国語A]

＜公立＞ 正答数分布グラフ（横軸：正答数，縦軸：児童の割合）

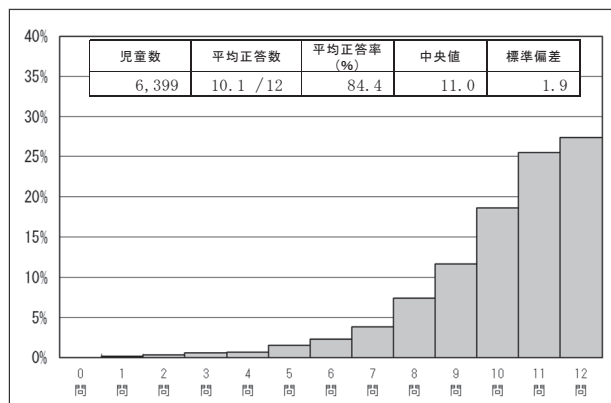


[国語B]

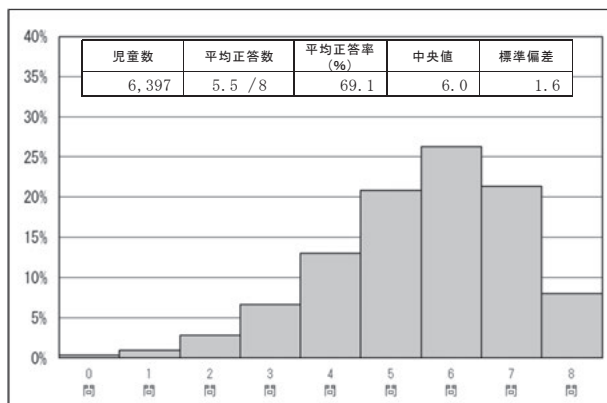
＜公立＞ 正答数分布グラフ（横軸：正答数，縦軸：児童の割合）



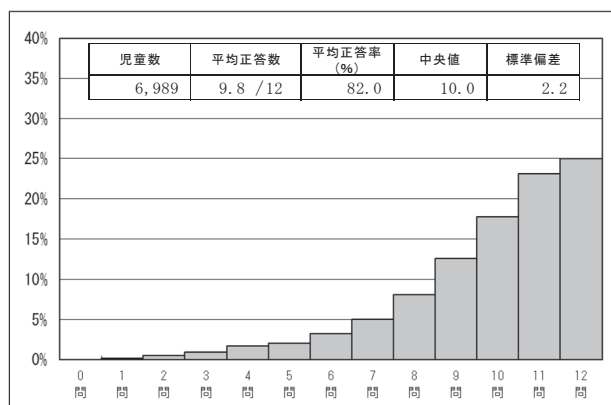
＜国立＞ 正答数分布グラフ（横軸：正答数，縦軸：児童の割合）



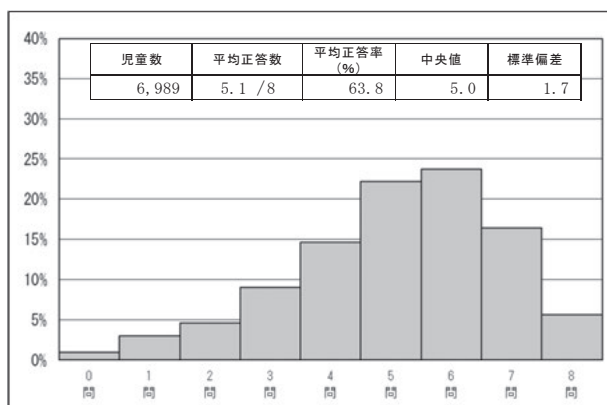
＜国立＞ 正答数分布グラフ（横軸：正答数，縦軸：児童の割合）



＜私立＞ 正答数分布グラフ（横軸：正答数，縦軸：児童の割合）



＜私立＞ 正答数分布グラフ（横軸：正答数，縦軸：児童の割合）



3. 教科に関する調査の各問題の分析結果と課題

(1)「3. 教科に関する調査の各問題の分析結果と課題」の見方

調査問題について、出題の趣旨、学習指導要領における領域・内容、解答類型と反応率、分析結果と課題、学習指導に当たって等を記述しています。

問題画像
 調査問題を縮小して掲載しています。

出題の趣旨
 調査問題ごとに、出題の趣旨を示しています。

趣旨
 問題ごとの趣旨を示しています。

■学習指導要領における領域・内容
 調査対象学年及び他の学年の児童生徒への学習指導の改善・充実を図る際に参考となるよう、関係する学習指導要領における領域・内容を示しています。

1. 解答類型と反応率
 解答類型ごとの反応率、正答の条件を示しています。(詳細は下欄参照)

教科名 A ☐

問 題 画 像

出題の趣旨

設問○
趣旨

■学習指導要領における領域・内容
 (第○学年)

1. 解答類型と反応率

問題番号	解 答 類 型	反 応 率 (%)	正 答
○	1		◎
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
8	上記以外の解答		
9	無解答		

解答類型と反応率

解答類型は、児童生徒一人一人の具体的な解答状況を把握することができるよう、設定する条件などに即して解答を分類、整理するためのものです。正誤だけではなく、児童生徒一人一人の誤答の状況（どこでつまづいているのか）等に着目した学習指導の改善・充実を図る際に活用することができます。

＜正答について＞

「◎」… 解答として求める条件を全て満たしている正答

「○」… 問題の趣旨に即し必要な条件を満たしている正答

※ 反応率は小数第二位を四捨五入したものであるため、「◎」と「○」の反応率の合計と正答率が一致しない場合や合計が100%にならない場合があります。

分析結果と課題

問題ごとに、以下の内容について記述しています。

- ・ 正答率、課題の有無
- ・ 特徴的な誤答について、反応率、解答例、課題の詳細
- ・ これまでの調査で見られた課題との関連 など

※図はイメージです。

2. 分析結果と課題

○

○

○

○

3. 学習指導に当たって

○

○

○

○

(参照)
「4年間のまとめ【○学校編】」 P.□～P.□, P.□
「平成○年度【○学校】報告書」 P.□～P.□, P.□

※出典等

.....

2. 分析結果と課題

正答率，課題の有無，誤答の分析，これまでの調査で見られた課題との関連等を記述しています。
(詳細は前ページの下欄参照)

3. 学習指導に当たって

調査結果を受け，学習指導の改善・充実を図る際のポイントを問題ごとに記述しています。(詳細は下欄参照)

※出典等

著作物について，出典及び著作権者等を示しています。

学習指導に当たって

調査問題に関係する領域・内容について，各学年での日々の学習指導の改善・充実を図る際に御活用ください。また，本書のほか，授業の改善・充実を図る際の参考となるよう，授業のアイディアの一例を示すものとして「授業アイディア例」（本年8月下旬公表予定）を作成しますので，本書及び「解説資料」（本年4月公表）と併せて御活用ください。

なお，関連する過去の調査の報告書や授業アイディア例など，これまで作成した資料の該当ページを記載していますので，これらの資料も併せて御活用ください。

本書では，以下の資料については略称を用いています。

資 料	略 称
「全国学力・学習状況調査の4年間の調査結果から今後の取組が期待される内容のまとめ～児童生徒への学習指導の改善・充実に向けて～【○学校編】」	「4年間のまとめ【○学校編】」
「平成○年度 全国学力・学習状況調査 解説資料 ○学校 ○○」	「平成○年度【○学校】解説資料」
「平成○年度 全国学力・学習状況調査 報告書 ○学校 ○○」	「平成○年度【○学校】報告書」
「平成○年度 全国学力・学習状況調査【○学校】の結果を踏まえた授業アイディア例」	「平成○年度【○学校】授業アイディア例」
「言語活動の充実に関する指導事例集～思考力，判断力，表現力等の育成に向けて～【○学校版】」	「言語活動事例集【○学校版】」

3. 教科に関する調査の各問題の分析結果と課題

(2) 小学校 国語 A

国語 A 1 図書館への行き方を説明する

1 村上さんは、駅で図書館への行き方をたずねられました。次の「二人の会話」で、村上さんはどのように説明していますか。その説明として適切なものを、あとの1から5までのの中から二つ選んで、その番号を書きましょう。

【二人の会話】

すみません。図書館へ行きたいのですが、どう行けばよいでしょうか。青山橋の先にあると聞いています。

はい。青山橋までの行き方は分かります。でも、その先の行き方が分からないのです。

そうですか。では、その橋をわたってまっすぐ行くと左手に警察署が見えます。そこを左に曲がるとすぐに図書館が見えてきます。

方分かりますか。

分かります。

1 徒歩での時間を示した上で説明している。

2 図書館の様子をくわしく説明している。

3 相手の知識を確認した上で説明している。

4 目印になるものを示して説明している。

5 交差点の数を確認しながら説明している。

出題の趣旨

相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて、事例などを挙げながら筋道を立てて話すことができるかどうかをみる。

■学習指導要領における領域・内容

〔第3学年及び第4学年〕 A 話すこと・聞くこと

イ 相手や目的に応じて、理由や事例などを挙げながら筋道を立て、丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話すこと。

■学習指導要領に示されている言語活動例との関連

〔第3学年及び第4学年〕 A 話すこと・聞くこと

ア 出来事の説明や調査の報告をしたり、それらを聞いて意見を述べたりすること。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率 (%)	正答
1	1 3・4と解答しているもの（順不同）	90.9	◎
	2 3と解答しているが、4と解答していないもの	2.2	
	3 4と解答しているが、3と解答していないもの	6.1	
	99 上記以外の解答	0.7	
	0 無解答	0.1	

2. 分析結果と課題

- 解答類型3の反応率は6.1%である。これは、状況に応じて適切に説明するために相手の知識を確認するという村上さんの意図を捉えることができなかったと考えられる。この中には、選択肢3ではなく2と解答している児童が多く見られた。これは、村上さんの「図書館が見えてきます」と選択肢2の「図書館」とを結び付けて捉えたと考えられる。

3. 学習指導に当たって

相手や目的に応じて説明の仕方を工夫する

- 相手や目的、場面、状況に応じて適切に説明の仕方を工夫することは重要である。説明の仕方を工夫するとは、言葉を置き換えること、内容や順序を考えること、相手の理解の状況を確認しながら説明することなどが考えられる。

学習指導としては、例えば、クラブ活動について下級生に説明するという場を活用することが考えられる。

〈言葉を置き換えること〉

3年生には、「リーグ戦」という言葉は難しいかな。

サッカークラブでは、4チームに分かれて試合を行います。試合は、自分のチーム以外のすべてのチームと戦う形式で行います。

サッカークラブ

〈内容や順序を考えること〉

一輪車に乗ることができると不安に感じているようだから、先に一輪車に乗る練習について説明しよう。

一輪車に乗ることが初めての人でも心配ありません。一輪車クラブでは、4月と5月に上級生が一輪車の乗り方を教えます。そこで一緒に練習をすれば、乗ることができるようになりますよ。

一輪車クラブ

〈相手の理解の状況を確認しながら説明すること〉

クラブの1年間の活動について説明し終わったけれど、理解できたかな。

ここまでの説明で、何か分からないことはありますか。

音楽クラブ

国語A 2 物語を創作する（宝物を探す物語）

- 1 現在と過去を行き来して書き、読者に出来事のつながりが少しずつ分かるようにしている。
- 2 出来事に変化を加えながらくり返して書き、読者が展開に期待をもつて読めるようにしている。
- 3 物語の結末の場面から書き、読者が展開に興味をもつて読めるようにしている。
- 4 時間の流れとは反対の順序で書き、読者に出来事のきっかけが分かるようにしている。

終わり	中	はじめ
ケンとアンは、村に伝わる宝物を見つける。しかし、二人にとっては「友情」が一番の宝物となった。	<p>① 一日かけて、草原で第一の宝箱を見つける。箱の中には、宝物ではなくカギと紙きれが入っている。</p> <p>② 二日かかりで、山で第二の宝箱を見つける。箱の中には、またカギと紙きれが入っている。</p> <p>③ 三日かかりで、川で第三の宝箱を見つける。箱の中には、またカギと紙きれが入っている。</p> <p>④ 四日かかりで、海で第四の宝箱を見つける。箱の中には、またカギと紙きれが入っており、今まで見つけた紙きれを全て合わせると、宝物の場所を示す地図になることに気づく。</p>	ケンとアンは、村に伝わる宝物の話をおいさんから聞き、宝探しに出かける。

【物語の構成】

増田さんは、ケンとアンが宝物を探す物語を書こうとして、構成の「中」の部分をつくりました。次の【物語の構成】をよく読んで、増田さんのくふうの説明として最も適切なものを、あとの1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

出題の趣旨

自分の想像したことを物語に表現するために、文章全体の構成の効果を考えることができるかどうかをみる。

■学習指導要領における領域・内容

〔第5学年及び第6学年〕 B 書くこと

イ 自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えること。

■学習指導要領に示されている言語活動例との関連

〔第5学年及び第6学年〕 B 書くこと

ア 経験したこと、想像したことなどを基に、詩や短歌、俳句をつくったり、物語や随筆などを書いたりすること。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率(%)	正答
2	1 と解答しているもの	7.6	◎
	2 と解答しているもの	73.9	
	3 と解答しているもの	12.4	
	4 と解答しているもの	5.8	
	99 上記以外の解答	0.1	
	0 無解答	0.3	

2. 分析結果と課題

- 解答類型3の反応率は12.4%である。これは、【物語の構成】の「中」の部分から、出来事に変化を加えながら繰り返して書く構成の工夫と、その効果を捉えることができていない。この中には、選択肢3の「読者が展開に興味をもって読めるようにしている」という構成の効果にのみ着目し、「物語の結末の場面から書く」構成ではないことを捉えることができなかった児童もいたと考えられる。

3. 学習指導に当たって

物語の構成の工夫や効果を捉えて書く

- 児童が物語を創作する際には、想像したことを思い付くままに表現したり、時系列に沿って書き進めたりすることがある。高学年においては、読者に期待をもって読み進めてもらえるような展開にするために、構成を工夫して書くことができるように指導することが大切である。

物語の構成例としては、現在と過去を行き来して書く構成、出来事に変化を加えながら繰り返して書く構成などが考えられる。このような構成例を学んだ上で、どのような構成にすることがより効果的なのかを考え、自分の物語を読み返すような学習過程が重要となる。その際、児童の表現したいという思いを大切にするとともに、創造的に表現することの楽しさを実感することができるように指導することも重要である。

また、構成を工夫して物語を創作するためには、読むことの指導との関連を図ることが有効である。具体的には、構成の工夫とその効果を捉えるという観点で、複数の物語を読むことを通して、それぞれの作品の構成とその効果を分析し、分類しながら表にまとめて整理することなどが考えられる。

国語A 3 オムレツの作り方を調べる

3

山本さんと川上さんは、「オムレツのページ」を読み、家でオムレツを作りました。次の「オムレツのページ」と「オムレツを作ったあとの感想」をよく読んで、あとの「問い」に答えましょう。

【オムレツのページ】

ふんわりやわらか
オムレツ
(調理時間約10分)

材料 (一人分)

卵……………2個
バター……………5グラム
塩……………少々
こしょう……………少々

作り方

1 ボウルに卵を割り入れ、溶きほぐし、塩、こしょうで味つけをする。

2 直径18cmほどの小さめのフライパンを強火にかけ、温まったら弱火にしてバターを入れる。バターが溶けきる前に卵を一気に流し入れる。

3 フライパンを前後に動かしながら、さいばして円をえがくように手早く混ぜる。このとき、火が入り過ぎないように、ときどきフライパンを火からおろす。

4 表面が半熟状になったら、フライパンの手前側の卵を向こう側へ折り返す。



5 向こう側の卵を手前に折り返す。

6 卵のとじ目が下になるようにお皿に移したらでき上がり。

ポイント

○ 卵をよく溶きほぐすためには泡立て器を使うのがこつ。黄身と白身がよく混ざり、でき上がったときにむらがなくなります。

○ フライパンに卵を入れるときにチーズを入れると、チーズオムレツを作れることもできます。



【オムレツを作ったあとの感想】

「作り方」のとおりには卵を溶きほぐしたのに、黄色いきれいなオムレツにならなかったな。次は白いきれいにならないようにしたいな。

少しこげてしまったから、今度はこげないようにしたいな。どこに気をつけたらよいのだろう。

（問い）

山本さんと川上さんは、オムレツをうまく作るために、「オムレツのページ」をもう一度読むことにしました。二人はそれぞれ、どのように読めばよいですか。最も適切なものを、次の1から5までの中からそれぞれ一つ選んで、その番号を書きましょう。

1 「材料」の分量を正確に読む。

2 文章全体の内容を表す大きな見出しを読む。

3 「作り方」の中から必要な内容を探しながら読む。

4 絵と文章を結びつけながら読む。

5 「ポイント」に書かれた内容に着目して読む。

山本さん……

川上さん……

※解答は、解答用紙に書きましょう。

出題の趣旨

目的に応じて必要な情報を捉えることができるかどうかをみる。

■学習指導要領における領域・内容

〔第3学年及び第4学年〕 C 読むこと

イ 目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。

■学習指導要領に示されている言語活動例との関連

〔第3学年及び第4学年〕 C 読むこと

イ 記録や報告の文章，図鑑や事典などを読んで利用すること。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率 (%)	正答
3	1 山本さんに5，川上さんに3と解答しているもの	74.1	◎
	2 山本さんに5と解答しているが，川上さんに3と解答していないもの	9.6	
	3 川上さんに3と解答しているが，山本さんに5と解答していないもの	4.5	
	99 上記以外の解答	11.6	
	0 無解答	0.2	

-28-

2. 分析結果と課題

- 正答率は74.1%である。本問は、「4年間のまとめ【小学校編】」において、「目的に応じて必要となる情報を取り出し、それらを関係付けて読むこと」に課題が見られたことを踏まえて出題した。
- 解答類型2の反応率は9.6%である。これは、川上さんの「こげないようにしたい」という目的と、「作り方」の2に書かれている「強火」、「弱火」、3に書かれている「火が入り過ぎないように」という火に関する内容とを関係付けて捉えることができなかったと考えられる。この中には、川上さんに4と解答している児童が多く見られた。これは、「こげないようにしたい」という川上さんの目的とフライパンのイラストとを結び付けて捉え、文章には着目することができなかったと考えられる。
- 解答類型3の反応率は4.5%である。これは、山本さんの「白いところが残らないようにしたい」という目的と、「ポイント」に書かれている「黄身と白身がよく混ざり」、「むらがなくな」という言葉とを関係付けて捉えることができなかったと考えられる。

3. 学習指導に当たって

目的に応じて必要な情報を捉えて読む

- 中高学年では、目的に応じていろいろな本や文章を分析的に読み、内容の中心を捉えたり、段落相互の関係を考えて全体の構成を把握し、自分の考えをまとめたりしながら読むなど、課題を解決するために必要な情報を捉えて読む活動が増える。日常生活においても、図鑑や事典、説明書、インターネットの記述などから自分が知りたい情報を見付けて読む機会が多くある。そこでは、目的に応じて中心となる語や文を捉えて読む能力が必要になる。

「目的に応じて」とは、本問を例に挙げると「白いところが残らないようにしたい」、「こげないようにしたい」のように、何のために調べるのか、何について調べるのかを明らかにすることである。

目的に応じて、中心となる語や文を捉えて読むことができるようにするためには、学習活動において以下のような工夫をすることが重要である。

- ・ **目的を明確にし、調べる内容を具体的にすることができるようになる**

何のために調べるのかという目的を明確にし、何について調べるのかを具体的にすることで、自分が必要とする情報がどこにどのように書かれているかを捉えることができるようにする。特に、何について調べるのかを具体的にするためには、本問にあるように、自分の活動を振り返り、新たな課題を見付けたり、目的を焦点化したりすることができるような学習過程の設定が有効である。

- ・ **図鑑や事典などの読み方を身に付けることができるようになる**

目次や索引、見出しに着目して読む、キーワードを見付けながら読む、図表と結び付けて読むなど、図鑑や事典から必要な情報を得るための方法を児童が身に付けることができるようにする。そのためには、調べる学習を積み重ね、児童がその有効性を実感できるようにすることが大切である。

- ・ **他教科等との関連を図り、国語科で身に付けたことを活用できるようにする**

国語科で身に付けた、図鑑や事典から必要な情報を得るための方法を、他教科等の学習活動に生かすことができる機会を意図的に設定する。その際、必要な情報を捉えて読むことで課題解決を図ることができたかどうかを振り返る時間を設け、児童がその有効性を実感できるようにする。

なお、課題を解決するために必要な情報を捉えて読む活動は、学年が上がるにつれて増えてくるため、低中学年の国語の授業においても身に付けることができるように、意図的に学

習活動を展開することが必要である。

ここでは、前頁の「他教科等との関連を図り、国語科で身に付けたことを活用できるようにする」ことの例として、家庭科や総合的な学習の時間における学習活動を示す。

「卵料理を作ろう」

〈活動の流れ〉

1 作りたい卵料理を決める。→オムレツ

2 オムレツの作り方を調べる。

3 調べたことを基にオムレツを作る。

4 オムレツ作りを振り返り、課題を明確にする。

5 4の課題を解決するために調べる。

6 調べたことを基に、もう一度オムレツを作る。

図鑑や事典から必要な情報を得るための方法

主に〈活動の流れ〉の2で生かしたい方法

- 「目次」や「索引」などを利用して調べたい言葉が出ているページを探す。
- 調べたい言葉が「目次」や「索引」などに見当たらない場合は、別の言葉に置き換えて探す。

主に〈活動の流れ〉の5で生かしたい方法

- 目的に応じたキーワードを見付けながら読む。
【例】
〔目的〕
焦げないように作りたい。
〔キーワード〕
焦げ、火加減、強火、火の通り、焼く時間

- 文章中に用いられている図表が文章のどの部分と結び付くのかを明らかにしながら読む。

【例】

- ・ フライパンの手前側の卵を向こう側へ折り返す。



- 探した情報を整理する。

【例】

- ・ 箇条書きをする。
- ・ キーワードを丸で囲んだり、線でつないだりする。



- 調べたい情報が得られない場合は、別の本に当たる。

〈指導する際の留意点〉

- 活動を振り返り、必要な情報を得るための方法の有効性を児童が実感できるようにする。
- 同じページを読む際にも目的に応じて読み方が異なる。〈活動の流れ〉の2では、オムレツの作り方を知るという目的で読むため、ページの全体を通読することが多い。〈活動の流れ〉の5では、自分の調べたい内容に応じて、見出しやキーワードに着目し、拾い読みをする摘読が効果的である。

(参照)「4年間のまとめ【小学校編】」P.10～P.11

※出典等

- ・【オムレツのページ】は，ホテルニューオータニ監修『本当に旨いたまご料理の作り方100』（2016年11月 イカロス出版株式会社）などを参考にした。

国語A 4 物語を読み、心に残ったことを説明する(『くらやみの物語』)

4
中西さんは、武鹿悦子さんが書いた『くらやみの物語』を読み、心に残ったことについて説明することにした。次の【物語の一部】をよく読んで、あとの(問い)に答えよう。

■物語のこれまでのあらすじ
五年生の夏休みの終わりに、コウタは、カクロウをふくめた塾の仲間と花火大会を計画していた。お金を出し合って買った花火は、コウタの家の物置に入っていた。しかし、その花火は計画の当日にコウタの母親に見つかり、水につけられてしまう。コウタは、そのことをカクロウに伝え、カクロウと自転車仲間のもとに向かい、報告をする。そこでコウタは仲間の一人に厳しくせめられてしまう。

【物語の一部】

(武鹿悦子『くらやみの物語』による。)

(問い) 中西さんは、特に心に残った文として――部を取り上げ、その理由について説明しようと考えています。理由として最も適切だと考えられるものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

1 登場人物の行動から、コウタのあわてている様子が伝わってくるから。

2 景色や様子を表す表現から、コウタのいかりやくやしさが伝わってくるから。

3 音を表す表現から、山の静けさと海の激しさが伝わってくるから。

4 登場人物の会話から、おたがいを思う気持ちが伝わってくるから。

出題の趣旨

登場人物の心情について、情景描写を基に捉えることができるかどうかをみる。

■学習指導要領における領域・内容

〔第5学年及び第6学年〕 C 読むこと

エ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。

■学習指導要領に示されている言語活動例との関連

〔第3学年及び第4学年〕 C 読むこと

エ 紹介したい本を取り上げて説明すること。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解 答 類 型		反応率 (%)	正答
4	1	1 と解答しているもの	2.5	◎
	2	2 と解答しているもの	74.1	
	3	3 と解答しているもの	17.2	
	4	4 と解答しているもの	5.8	
	99	上記以外の解答	0.0	
	0	無解答	0.3	

2. 分析結果と課題

- 解答類型3の反応率は17.2%である。これは、物語のこれまでのあらすじや【物語の一部】にあるコウタの状況と風景や様子を表す表現とを関係付けて捉えることができなかったと考えられる。この中には、——部にある「草がそよぎをとめ」や、「カナカナ」、「草むらの虫の声」と選択肢3の「音を表す表現」とを関係付けたり、——部にある「火の海」と選択肢3の「海の激しさ」とを関係付けたりした児童もいたと考えられる。

3. 学習指導に当たって

登場人物の心情について、情景描写を基に捉える

- 中学年までに、一人一人の登場人物の行動や性格に基づき、場面の展開に即して変化する気持ちを中心に捉えながら読んできたことを踏まえ、高学年では、登場人物の相互関係から人物像やその役割を捉え、そのことによって、内面にある深い心情も合わせて捉えることにつながっていく必要がある。登場人物の心情は、直接的に描写されている場合もあるが、登場人物相互の関係に基づいた行動や会話、情景などを通して暗示的に表現されている場合もある。このような表現の仕方にも注意し、想像を豊かにしながら読むことが大切になる。また、「何が書かれているか」という内容面だけではなく、「どのように描かれているか」という表現面にも着目して読むことで、物語などの全体像を具体的に想像することにつながるようになる。

そのためには、本問のように、心に残った叙述を取り上げ、その叙述を取り上げた理由を考えることを通して、象徴性や暗示性の高い表現、メッセージや題材を強く意識させる表現などに着目できるようにすることが大切である。

なお、優れた叙述は、一冊の本や一編の文章だけでは分かりにくいこともある。同じ作者や同じ題材の作品を比べて読むようにして、児童が自分で優れた叙述に気付いていくことができるように工夫することが大切である。

ここでは、情景描写を基に登場人物の相互関係や心情を捉えることの学習活動の例を次に示す。

「椋鳩十の作品を読んで、心に残った一文を伝え合おう」

- この単元では、登場人物の相互関係や心情について、情景描写を基に捉えることができるように、根拠となる叙述を抜き出し、説明できるようにする。

単元の流れ

- ① 椋鳩十の作品の読み聞かせやブックトークを聞いたり、教師による心に残った一文の紹介を聞いたりしながら、学習のめあてを確認し、単元の見通しをもつ
- ② 複数の椋鳩十の作品を読む
- ③ 「大造じいさんとがん」を読み、心に残る一文とその理由を交流する



私は「東の空が真っ赤に燃えて、朝が来ました。」という文が何となくカッコいいと思ったの。

ぼくも同じ文が心に残ったよ。「空が真っ赤に燃えて」というところには、残雪に挑もうとする大造じいさんの燃えるような気持ちが表れていると思うんだ。



なるほど。だからカッコいいと感じたのかな。情景を表す表現から登場人物の気持ちが分かるんだね。

- 心に残る一文として、児童が情景描写を取り上げていない場合は、教師が情景描写に着目することができるように指導することも考えられる。

- ④ 他の椋鳩十の作品について、心に残る一文とその理由を交流する



私が読んだ「片耳の大シカ」の最後の場面に「いつの間にか、先ほどのあらしもやんで、太陽がかがやいていた。」という情景描写があるのだけれど、「大造じいさんとがん」の最後の場面と似ていると思うの。

なるほど、ぼくはどちらも人間と動物の間に新しい関係が生まれたような感じがするなあ。



「母グマ子グマ」のお話も母グマと子グマの関係が表れているような気がするの。この「金色のあたたかい太陽が、山いっぱいにふりそそいで、木の芽が、ぷくっとふくらみかけておりました。」という情景描写なのだけれど。

確かに「金色のあたたかい太陽」が母グマで「木の芽」が子グマを表しているような感じがするね。



母グマの子グマに対する愛情が伝わってきて、私はとても心に残ったの。

- 同じ作者の作品を比べたり重ねたりして読むことで、児童が自分で優れた叙述に気付くことができるようにする。自分が作品に対して感じたことがどの叙述に基づくものなのかを明らかにすることで、より自分の考えが明確になることに気付くことができるようにすることが大切である。

⑤ 棕鳩十の作品について感じたことを伝え合う

- 感じたことを伝え合うときには、友達がどの叙述を根拠として述べているのかに着目することができるようにする。また、この活動を通して、優れた叙述が作品全体に及ぼす効果について考えることができるようにする。
- 優れた叙述に着目して複数の棕鳩十の作品を読んだ経験を、日常の読書生活において他の物語を読む際にも生かすことができるようにし、優れた叙述の効果を味わいながら本の世界を楽しむことができるようにすることが大切である。

(参照)「4年間のまとめ【小学校編】」P. 8～P. 9

※出典等

- ・武鹿悦子『くらやみの物語（新しいこどもの文学）』（1997年8月 小峰書店）による。

国語 A 5 書いた文章を読み直す（春休みの出来事）

大山さんは、春休みの出来事について文章を書いたあと、読み返して、……部と——部とのつながりが合っていない文があることに気づきました。次の【春休みの出来事の一部】をよく読んで、あとの（問い）に答えましょう。

5

【春休みの出来事の一部】 文のはじめにある数字は、その文の番号を示しています。

①はくは、校庭で野球の練習を毎日がんばりました。その努力は見事に実りました。②はくたちのチームは、地区大会で優勝したのです。③今年の春休みは、とてもじゆう実したものでありました。でも、反省していることもあります。④反省点は、用具の手入れをあまりしませんでした。これからは、練習だけではなく、用具の手入れもしっかりがんばりたいと思います。

（問い） ……部と——部とのつながりが合っていない文の番号を、①から④までのの中から一つ選んで書きましょう。また、……部はそのままにして、文の意味が変わらないように、選んだ文を正しく書き直しましょう。

※解答は、解答用紙に書きましょう。

選んだ文の番号……

書き直した一文

出題の趣旨

文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書くことができるかどうかをみる。

■学習指導要領における領域・内容

〔第3学年及び第4学年〕 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

(1) イ 言葉の特徴やきまりに関する事項

(き) 修飾と被修飾との関係など、文の構成について初歩的な理解をもつこと。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解 答 類 型		反応率 (%)	正答
5		(正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 ① 選んだ文の番号を④と解答している。 ② 選んだ文を以下のように書き直している。 a ----- 部をそのままにしている。 b ----- 部と ----- 部とのつながりが合っている。 c 選んだ文の意味が変わらないようにしている。 (②の正答例) ・ 反省点は、用具の手入れをあまりしなかったことです。		
	1	条件①と、条件②a, b, cを満たしているもの	35.8	◎
	2	条件①, ②a, bは満たしているが、条件②cは満たしていないもの	4.1	
	3	条件①, ②a, cは満たしているが、条件②bは満たしていないもの	2.8	
	4	条件①, ②aは満たしているが、条件②b, cは満たしていないもの	4.2	
	5	条件①は満たしているが、条件②aは満たしていないもの *条件②b, cを満たしているかどうかは不問とする。	4.6	
	6	条件①を満たしていないもののうち、選んだ文の番号を①と解答しているもの *条件②を満たしているかどうかは不問とする。	13.7	
	7	条件①を満たしていないもののうち、選んだ文の番号を②と解答しているもの *条件②を満たしているかどうかは不問とする。	11.7	
	8	条件①を満たしていないもののうち、選んだ文の番号を③と解答しているもの *条件②を満たしているかどうかは不問とする。	17.7	
	99	上記以外の解答	1.4	
	0	無解答	3.8	

2. 分析結果と課題

- 解答類型6の反応率は13.7%、解答類型7の反応率は11.7%、解答類型8の反応率は17.7%であり、合わせると43.1%となる。これらは、主語と述語との関係を適切に捉えることができず、④「反省点は、用具の手入れをあまりしませんでした。」の文を、主語と述語とのつながりが合っていないものとして選ぶことができなかったと考えられる。
- 解答類型3の反応率は2.8%、解答類型4の反応率は4.2%である。これらは、条件②b「----- 部と ----- 部とのつながりが合っている」を満たしていないものである。具体的な例としては、次のようなものがある。

(例)

〈解答類型3〉

- ・ 反省点は、用具の手入りをあまりしなかったです。

〈解答類型4〉

- ・ 反省点は、用具の手入りをまったくしなかったです。

主語と述語との関係には、次のようなものがある。

- ① 「だれが（何が）」「だれは（何は）」～「どうする」
- ② 「だれが（何が）」「だれは（何は）」～「どんなだ」
- ③ 「だれが（何が）」「だれは（何は）」～「なんだ」

上のように解答した児童は、③のような主語と述語との関係を踏まえて適切に書き直すことができなかったと考えられる。

3. 学習指導に当たって

主語と述語を適切に照応させて、文を正しく書く

- 主語と述語が適切な係り受けの関係となっていることが、伝えたいことを相手に正確に伝える上で重要であることに気付くようにすることが大切である。

本問で、主語と述語との関係を捉えにくくしているのは、主語が、人ではなく、「反省点は」になっているところである。そして、述語に当たる部分が、「用具の手入りをあまりしませんでした」というように動作を表す表現になっているため、主語と述語を適切に照応させるには「こと」などを補う必要がある。

主語と述語との関係については、表現するときだけではなく、文章を読むときにも強く意識できるように指導することが大切である。また、書くことの学習とも関連を図り、児童が自分で書いた文や文章を、主語と述語との関係に注意しながら、丁寧に読み返していく習慣を付けることも大切である。

国語 A 6 慣用句の意味を理解し、使う

イ				ア			
4	3	2	1	4	3	2	1
同級生に心を打たれることなく相談する。	相手に失礼のないように心を打たれる。	地域の発展のために、長い間、心を打たれる。	オーケストラの演奏をきき、心を打たれる。	あれこれと心配する。	感動する。	速りよする。	一つのこと集中する。

◆ 使う方…

イ

◆ 意味…

ア

心を打たれる

6 北村さんは、読んでいた本の中に出てきた表現の意味と使い方をカードにまとめています。北村さんが書いた「カード」の **ア**・**イ** の中に入る内容として最も適切なものを、あとの1から4までの中からそれぞれ一つ選んで、その番号を書きましょう。

出題の趣旨

日常生活で使われている慣用句の意味を理解し、使うことができるかどうかをみる。

■学習指導要領における領域・内容

〔第3学年及び第4学年〕 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

(1) ア 伝統的な言語文化に関する事項

(イ) 長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使うこと。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解 答 類 型		反応率 (%)	正答
6	1	アに3, イに1と解答しているもの	90.5	◎
	2	アに3と解答しているが, イに1と解答していないもの	2.0	
	3	イに1と解答しているが, アに3と解答していないもの	2.2	
	99	上記以外の解答	3.9	
	0	無解答	1.4	

2. 分析結果と課題

- 正答率は90.5%である。また、本問は、平成30年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語A[8]四1と共通の問題であり、中学校の正答率は94.8%である。以上のことから、小中学校の学習で定着が図られている慣用句については、中学校でも継続して身に付いているものと考えられる。

3. 学習指導に当たって

日常生活で使われている慣用句の意味を理解し、使う

- 慣用句とは、二つ以上の語が結び付いて元の意味とは違った特定の意味を表すものである。言語生活を豊かにするために、慣用句の意味を知り、実際の言語生活で用いることができるように指導することが大切である。

学習活動においては、以下のことに留意する必要がある。

- ・ 国語辞典や慣用句辞典などを活用することで、意味や用例について正しく理解できるようにする。
- ・ スピーチや日記などの中で実際に慣用句を用いる機会を設けるなどして、日常生活と結び付けることができるようにする。
- ・ 意図的、計画的に指導することで、学んだ言葉の定着を図ることができるようにする。

ここでは、実際の指導に当たって考えられる学習活動の例を次に示す。

「慣用句を仲間分けしよう」

複数の辞典などから自分が興味をもった慣用句を挙げ、「動物」、「植物」、「体の一部」、「数」、「色」などの観点で仲間分けをすることで、興味をもって調べることができるようにする。調べた慣用句は、本問のようにカードにまとめたり、かるたを作って実際に遊んだりして定着を図ることができるようにする。

「白（色）」
・ 白を切る
・ 白紙に返す
・ 黒白を争う

「手（体の一部）」
・ 手をかける
・ 手が空く
・ 手を焼く

「馬（動物）」
・ 馬が合う
・ 馬力をかける
・ 馬の背を分ける

「花（植物）」
・ 花を持たせる
・ 両手に花
・ 花道を飾る

「一（数）」
・ 一から十まで
・ 一か八か
・ 一事が万事

同じ言葉を使っている
慣用句がたくさんあるね。
それぞれ、どんな意味が
あるのかな。



「学級の出来事を慣用句で表現しよう」

体験に基づいた様子や気持ちについて、慣用句を用いて表現することで、実際の生活体験に結び付けながら習得できるようにする。その際、学級の共通体験を取り上げ、友達と交流しながら調べたり、表現したりする活動を設定し、より豊かな言語表現ができるようにする。

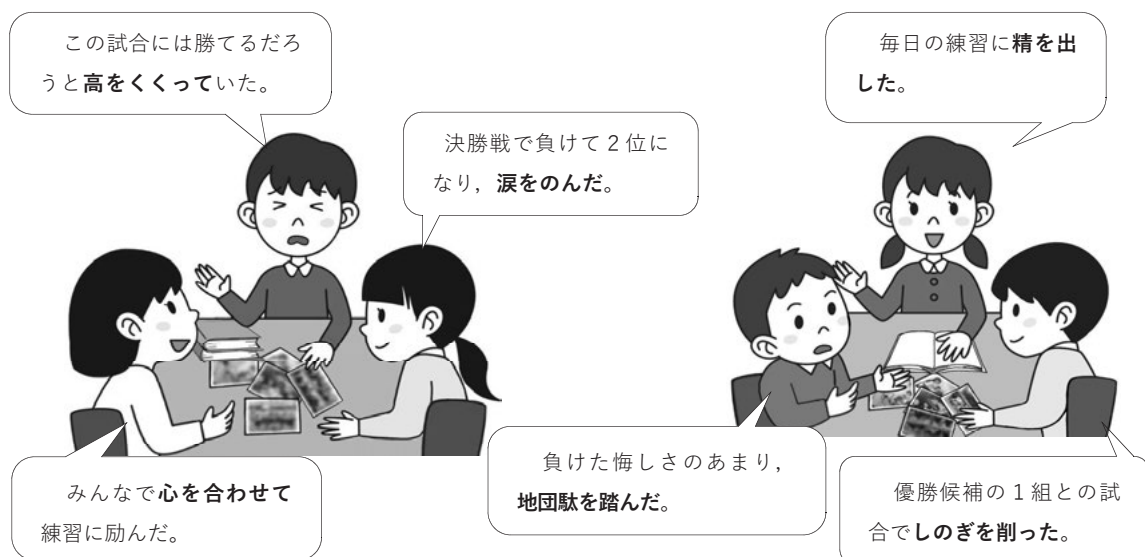
題材：ドッジボール大会

学習の流れ

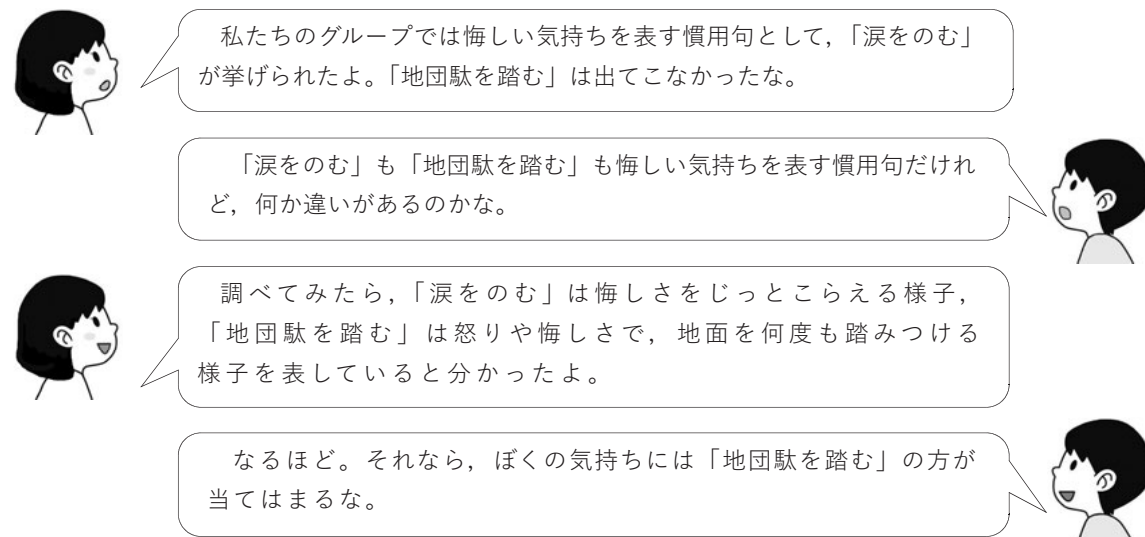
① ドッジボール大会について写真を基に振り返る

② それぞれの写真から想起するそのときの様子や自分の気持ちに当てはまる慣用句を、グループで調べる

調べる際には、慣用句辞典を活用したり、教師が例示した様子や気持ちを表す慣用句の一覧などを参考にしたりする。



③ それぞれのグループで出されたそのときの様子や自分の気持ちに当てはまる慣用句について交流する



④ 交流したことを基に、そのときの様子や自分の気持ちに合う慣用句を選んで、文章を書く



ドッジボール大会に向けて、ぼくたちのクラスは心を合わせて練習にはげみました。

しかし、決勝戦で負けて、結果は二位になり、ぼくたちは地団駄を踏んでくやがりました。

練習がとても順調だったので、本番でも勝てるだろうと、高をくくっていたのが原因だろうと思っています。

国語 A 7 敬語を使う

- 4 ア いらっしゃいました
- 3 ア 来ました
- 2 ア いらっしゃいました
- 1 ア 来ました
- イ 言っていた
- イ おっしゃっていた
- イ おっしゃっていた
- イ 言っていた

石橋さん みなさん、池田さんが。今日は、おとうふ屋さんの仕事について、たくさん教えていただきました。池田さん、お願いします。

池田さん みなさん、こんにちは。

（池田さんの話を聞く）

石橋さん 池田さん、ありがとうございます。池田さんに質問のある人はいますか。

高野さん おとうふ屋さんは、朝早く起きなければならないので、とても大変だと私の母が

イ のですが、池田さんはどうですか。



7 石橋さんたちは、地域の人から仕事についての話を聞いています。次の「話を聞いている様子の一部」を読み、ア、イに入る内容の組み合わせとして最も適切なものを、あとの1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

【話を聞いている様子の一部】

出題の趣旨

相手や場面に応じて適切に敬語を使うことができるかどうかをみる。

■学習指導要領における領域・内容

〔第5学年及び第6学年〕 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- (1) イ 言葉の特徴やきまりに関する事項
- (2) 日常よく使われる敬語の使い方に慣れること。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率 (%)	正答
7	1 1 と解答しているもの	4.4	
	2 2 と解答しているもの	31.9	
	3 3 と解答しているもの	2.3	
	4 4 と解答しているもの	56.3	◎
	99 上記以外の解答	2.5	
	0 無解答	2.6	

2. 分析結果と課題

- 解答類型2の反応率は31.9%である。これは、高野さんが自分の母から聞いたことについて池田さんに質問するという本問のような状況においては、身内に対して尊敬語を用いることが適切ではないということを捉えることができなかったと考えられる。

3. 学習指導に当たって

相手や場面に応じて適切に敬語を使う

- 敬語を使う際には相手と自分との関係やその場の状況を意識して、適切に使うことが求められる。

敬語を適切に使うことができるようにするためには、様々な場の状況で敬語を使うことに慣れることが重要である。具体的には、地域の人や保護者などに関わる学校行事などにおいて、話をしたり、案内の手紙を書いたりすることが考えられる。その際に、相手と自分との関係を意識しながら敬語を使うことに慣れるように指導することが大切である。また、本問のような状況において、自分や身内に関わる行動などについては尊敬語を用いることが適切ではないというような、公の場における言葉の使い方に対する感覚を養うことも大切である。

国語 A 8 文の中で漢字を使う

オ			ウ			ア		
3	2	1	3	2	1	3	2	1
せき	大会	三角	運	ノ	細	道	新	せい
仕事	で	形の	動	ートの	かい	具	しい	限
する	い	面	会	の	説	箱	品	時
	成	せ	で	文	明	の中	の	間
	せ	き	赤	字	は	を	価	に
	き	を	組	を	は	を	格	気
	残	求	が	け	い	を	を	つ
	す	め	か	す	ふ	調	を	け
						理	る	る

【ノートの一部】

おかし店の見学に行って分かったこと

○ 調理場には、生地を練る機械など、せい造に
必要なせつ備がある。

○ 衛生を保つために、調理器具などを一日に何度
もしょう毒する。

○ お客さんにおいしいおかしを食べてもらうために、
品質をしっかりとかん理している。

○ 地元の野菜や果物などを使った新しいおかしを
せつ極的に開発している。



8 矢野さんは、見学したことをノートにまとめています。次の【ノートの一部】をよく読んで、あとの（問い）に答えましょう。

出題の趣旨

学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる。

■学習指導要領における領域・内容

〔第5学年及び第6学年〕 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

(1) ウ 文字に関する事項

(ア) 第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。

1. 解答類型と反応率

問題番号		解 答 類 型		反応率 (%)	正答
8	ア	1	1 と解答しているもの	11.8	◎
		2	2 と解答しているもの	73.6	
		3	3 と解答しているもの	9.0	
		99	上記以外の解答	0.4	
		0	無解答	5.1	
	イ	1	1 と解答しているもの	82.3	◎
		2	2 と解答しているもの	6.3	
		3	3 と解答しているもの	4.7	
		99	上記以外の解答	0.6	
		0	無解答	6.2	
	ウ	1	1 と解答しているもの	7.7	◎
		2	2 と解答しているもの	82.3	
		3	3 と解答しているもの	3.0	
		99	上記以外の解答	0.5	
		0	無解答	6.5	
	エ	1	1 と解答しているもの	6.6	◎
		2	2 と解答しているもの	20.4	
		3	3 と解答しているもの	65.1	
		99	上記以外の解答	0.5	
		0	無解答	7.3	
	オ	1	1 と解答しているもの	51.7	◎
		2	2 と解答しているもの	16.5	
		3	3 と解答しているもの	23.6	
		99	上記以外の解答	0.6	
		0	無解答	7.7	

2. 分析結果と課題

- アの解答類型1の反応率は11.8%である。これは、選択肢1の「制」が、正答の「製」と、同じ音と同じ部分をもつため、選んだと考えられる。
- エの解答類型2の反応率は20.4%である。これは、選択肢2の「官」が、正答の「管」と、同じ音と同じ部分をもつため、選んだと考えられる。
- オの解答類型2の反応率は16.5%、解答類型3の反応率は23.6%である。これらは、選択肢2の「績」と、選択肢3の「責」が、正答の「積」と、同じ音と同じ部分をもつため、選んだと考えられる。

- 下の表のように、**ア**、**エ**については、三つの選択肢の漢字すべてが同じ音、二つの選択肢の漢字が同じ部分をもっている。**オ**については、三つの選択肢の漢字すべてが、同じ音と同じ部分をもっている。それぞれの文において、用いられている言葉や文脈との関係から、どの漢字を使うことが適切であるかを捉えることができなかった児童については、選択肢の中から適切なものを選ぶことができなかったと考えられる。

		選択肢 1	選択肢 2	選択肢 3	
ア	部分	制	製	整	二つが同じ
	音	セイ	セイ	セイ	三つが同じ
イ	部分	設	役	投	三つが同じ
	音	セツ	ヤク	トウ	すべて違う
ウ	部分	省	消	勝	すべて違う
	音	ショウ	ショウ	ショウ	三つが同じ
エ	部分	完	官	管	二つが同じ
	音	カン	カン	カン	三つが同じ
オ	部分	積	績	責	三つが同じ
	音	セキ	セキ	セキ	三つが同じ

3. 学習指導に当たって

文や文章の中で、漢字を正しく使う

- 漢字の指導に当たっては、日常生活の中で適切に使うことができるようにすることが重要である。そのためには、読み方や字形に注意して繰り返し練習することにとどまらず、本問で取り上げたように、同じ音や同じ部分をもつ漢字との違いや、文脈の中での使い分けに着目できるように指導することも大切である。その際には、漢字の成り立ちや部首の意味など、漢字への理解を深める学習につなげていくことも大切である。

ここでは、実際の指導に当たって考えられる学習活動の例を示す。

① 同じ音で読む漢字を集める

同音異義語など、同じ音で読む漢字を集めたり、その意味を辞書で調べたりする活動を取り入れる。

② 似た形の漢字を集める

同じ部分をもつ漢字や似た形の漢字を集め、辞書で「つくり」による意味の違い、「へん」による意味の違いなどを調べる活動を取り入れる。

③ 間違いやすい漢字を集める

児童が辞書を引いたときや、日常生活の中で見付けた、間違いやすい漢字を紹介し合う活動を取り入れる。児童が自分たちで見付けることで、漢字を正しく使おうとする意識を高めることにつなげていく。

集めた漢字は、カードや短冊にして教室に掲示するなど、日常生活の中で児童が漢字に触れることができるように、言語環境を整えることが大切である。その際、読み仮名、送り仮名を書き込んだり、それぞれの漢字を使った例文も書き加えたりして、文脈の中で使い分けることができるようにする。

なお、授業時間の他、朝の活動の時間を利用するなどして、教室内に掲示されているカードや短冊の漢字を選んで短文作りをするなど、短時間の学習を継続的に行うことも有効である。

将来の社会生活において漢字を円滑に運用できる能力を身に付けるためには、漢字を正しく読み、正しく書き、文や文章の中で使おうとする習慣を身に付けることが重要である。

3. 教科に関する調査の各問題の分析結果と課題

(3) 小学校 国語B

国語 B 1

松山さんの学級では、自分たちの言葉の使い方を見直すために、立場を決めて話し合うことにしました。次は、そのときの【話し合いの様子の一部】です。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【話し合いの様子の一部】

司会 自分たちの言葉の使い方を見直すために、今日は「生活の中で使っている言葉はみだれているか」について、三人の代表の人に考えを発表してもらいます。そして、その意見をもとにして、自分はこれから言葉をどう使っていくとよいかについて全員で話し合い、考えをいきましょう。それでは田中さんから、発表をお願いします。

田中 ぼくは、言葉はみだれていると思います。調べてみると、本来の意味とは異なる使われ方をしている言葉もある、ということも分かったんです。文比字の「国語に関する世論調査」では、「役不足」

四十一・六パーセントでした。半数以上の人は、本来の意味とは異なる使い方をしているようです。私も、言葉はみだれていると思います。なぜなら、言葉を省略して話す人が多いからです。例えば

いない言葉になったり、意味が分からなくなったりすることがあると思います。

小池 私は、言葉はみだれて、ないと思います。例えば、「全然」は「全然ない」のように、あとに打ち消しの言葉がくるとよく使うのですが、最近では、「全然いい」という使い方をする人もあります。また、辞書によると、あとに否定的ものが打ち消しの言葉に限らない時期もあったそうです。このように、時代によって言葉の使われ方は変わるから、今までのどちがうに使われ方だとしても、言葉がみだれているとは言えないと思います。

ありがとうございました。それぞれの発表に対して質問はありませんか。

木村 小池さんに質問があります。時代によって使われ方が変わった言葉は、「全然」以外にどのようなものがありますか。

小池 例えば、「見れる」という言葉があると思います。私たちは「見ることができる」という意味で使っていますが、辞書には、本来は「見られる」と言うべきものと書かれていました。

同会　ここに代表の人へ書を送ることを発表してもらいました。田中さんは、本来の意味とは異なる「使われ方」をしている言葉があるから言葉はだれている、という考え。北川くんは、言葉が省略して使われているから言葉はみだれている、という考えでした。小池さんは、言葉の使われ方は時代によって変わるので、言葉はみだれている、という考えでした。三人の意見について、みなさんはどう考えますか。

金子
田中さんが話したように、ぼくも本来の意味とは異なる使われ方をしている言葉は確かに多いと思います。
これからは、よく使っている言葉でも、疑問をもったときは意味を調べてみたいと思います

青木 本来の意味とは異なる使い方をしている。と田中さんは言っていました。そのような使い方をしても、自分の思いが相手に伝わることはあると思います。

相手の理解を確かめながら言葉を使っていこうと思います。

金子さんと青木さんは、これから言葉をとのうに使っていきたくについて話していました。

♪ (話し合いが続く) ♪

（話し合いが続く）

- 【話し合いの様子の一部】の★木村さんは、何のために質問をしたと考えられますか。最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。

- 1 発表の中で自分が聞きのがしたことをもう一度聞くため。

- 2 相手の考えの中で最も伝えたいことをたずねるため。

- 3 相手の考えとその理由のつながりを明らかにするため。

- 4 具体的な例がほかにもあるかを確かめるため。

- 二【話し合いの様子の一部】の司会は——部のように発言することによって、この話し合いの中で

- 1から4までのの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 話し合うことを明確にするために、三人の立場と理由を整理しようとしている。

- 2 立場を明確にして話し合うために、最もよい考えを選び出そうとしている。

- 3 活発な話し合いのために、時間や約束を守るように注意している。

- 4 発言回数に気をつけながら、話し合いを計画的に進めようとしている。

- 三 松山さんは【話し合いの様子の一部】の で、自分の考えを話します。あなたが松山さんなら、どのような考えを話しますか。その内容を、次の条件に合わせて書きましょう。

- 〈条件〉

- の金子さんと青木さんのように、代表で発表した北川さん、小池さんのいずれかの意見を取り上げ、その取り上げたことに対してどう考えるのかを書くこと。

- ◇司会が話しているように、「これから言葉をもどのように使っていきたいか」について書くこと
○ 八十字以上、百字以内にまとめて書くこと。

※左の原稿用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。

※◆の印から書きましょう。とちゅうで行を変えないで、続けて書きましょう。

※◆の印から書きましょう。とちゅうで行を変えないで、続けて書きましょう

[illegible]

100字 80字

出題の趣旨

互いの立場や意図を明確にしながら、計画的に話し合うことができるかどうかをみる。

■学習指導要領に示されている言語活動例との関連

〔第5学年及び第6学年〕 A 話すこと・聞くこと

イ 調べたことやまとめたことについて、討論などを行うこと。

設問一

趣旨

話し合いの参加者として、質問の意図を捉えることができるかどうかをみる。

■学習指導要領における領域・内容

〔第5学年及び第6学年〕 A 話すこと・聞くこと

オ 互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うこと。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率(%)	正答
1	1 と解答しているもの	1.8	
	2 と解答しているもの	6.3	
	3 と解答しているもの	8.9	
	4 と解答しているもの	82.6	◎
	99 上記以外の解答	0.1	
	0 無解答	0.4	

2. 分析結果と課題

- 「4年間のまとめ【小学校編】」では、「司会の役割を果たしたり、立場や根拠を明確にしたりして話し合うこと」に、また、平成26年度【小学校】国語B **1**二（正答率60.3%）では、「質問の意図を捉えること」に課題があると指摘している。本問では、正答率が82.6%であったことから、今回の調査を見る限り、改善状況が見られる。

設問二

趣旨

計画的に話し合うために、司会の役割について捉えることができるかどうかをみる。

■学習指導要領における領域・内容

〔第5学年及び第6学年〕 A 話すこと・聞くこと

オ 互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うこと。

1. 解答類型と反応率

問題番号		解 答 類 型		反応率 (%)	正答
1	二	1	1 と解答しているもの	77.7	◎
		2	2 と解答しているもの	14.2	
		3	3 と解答しているもの	2.7	
		4	4 と解答しているもの	4.8	
		99	上記以外の解答	0.1	
		0	無解答	0.5	

2. 分析結果と課題

○ 「4年間のまとめ【小学校編】」では、「司会の役割を果たしたり、立場や根拠を明確にしたりして話し合うこと」に、また、平成24年度【小学校】国語B²三（正答率52.5%）では、「話し合いの流れに応じた司会の発言のねらいを適切に捉えること」に、平成26年度【小学校】国語B¹一（正答率65.4%）では、「司会として話し合いの観点を整理すること」に課題があると指摘している。本問では、正答率が77.7%であったことから、今回の調査を見る限り、改善状況が見られる。

○ 解答類型2の反応率は14.2%である。これは、【話し合いの様子の一部】にある、「三人の意見について、みなさんはどう考えますか」や「みなさんも、そのことについての自分の考えも話してください」といった司会の発言に着目することができなかったと考えられる。この中には、司会が、「最もよい考えを選び出そうと」するために、——部で田中さん、北川さん、小池さんのそれぞれの考えを整理していると捉えた児童もいたと考えられる。

設問三

趣旨

話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめることができるかどうかをみる。

■学習指導要領における領域・内容

〔第5学年及び第6学年〕 A 話すこと・聞くこと

エ 話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること。

〔第5学年及び第6学年〕 B 書くこと

ウ 事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。

1. 解答類型と反応率

問題番号		解 答 類 型	反応率 (%)	正答
1	三	<p>(正答の条件)</p> <p>次の条件を満たして解答している。</p> <p>① 以下の内容を取り上げて書いている。</p> <p>a 北川さん、小池さんのいずれかの意見</p> <p>b 取り上げたことに対してどう考えるのか</p> <p>② ◇司会が話しているように、「これから言葉をどのように使っていきたいか」について書いている。</p> <p>③ 80字以上、100字以内で書いている。</p> <p>(正答例)</p> <ul style="list-style-type: none"> 北川さんが話したように、わたしも言葉を省略して話す人は確かに多いと思います。これからは、相手や場に合っているかどうかを考えながら、言葉をなるべく省略せずに使っていきたいと思います。(91字) 時代によって言葉の使われ方は変わると小池さんは言っていました。だからこそ、言葉の本来の意味や使い方をきちんと学ぶべきだとぼくは思います。これからは、言葉の本来の使い方を調べて使っていきたいです。(98字) 		
		1 条件①a, bの両方と、条件②, ③を満たしているもの	33.9	◎
		2 条件①a, bの両方と、条件②は満たしているが、条件③は満たしていないもの	1.1	
		3 条件①a, bは満たしているが、条件②は満たしていないもの *条件③を満たしているかどうかは不問とする。	16.1	
		4 条件①a, ②は満たしているが、条件①bは満たしていないもの *条件③を満たしているかどうかは不問とする。	0.8	
		5 条件①b, ②は満たしているが、条件①aは満たしていないもの *条件③を満たしているかどうかは不問とする。	4.4	
		6 条件①aは満たしているが、条件①b, ②は満たしていないもの *条件③を満たしているかどうかは不問とする。	0.7	
		7 条件①bは満たしているが、条件①a, ②は満たしていないもの *条件③を満たしているかどうかは不問とする。	5.2	
		8 条件②は満たしているが、条件①a, bは満たしていないもの *条件③を満たしているかどうかは不問とする。	18.9	
		99 上記以外の解答	12.8	
		0 無解答	6.2	

2. 分析結果と課題

- 解答類型3の反応率は16.1%である。具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ 北川さんが話したように、言葉を省略して話す人が多いとぼくは感じました。また、省略すると相手や場に合っていない言葉になったり、意味が分からなくなったりするという意見にも賛成です。(89字)
- ・ 小池さんが話していたように、言葉の使われ方は時代によって変わるものだから、言葉はみだれていないとぼくも考えました。言葉の使い方がまちがっていても、多少話せるのであれば、いいと思います。(93字)

このように解答した児童は、条件①a「北川さん、小池さんのいずれかの意見」と、条件①b「取り上げたことに対してどう考えるのか」について書くことができています。しかし、条件②「これから言葉をどのように使っていきたいか」について書くことはできていない。

- 解答類型8の反応率は18.9%である。具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例①)

- ・ 言葉はみだれている、本来の意味とはことなる使われ方をしていると田中さんは言いましたが、わたしもそう思います。相手によってみだれた言葉の受け入れ方もちがうので、正しい使い方を知りたいです。(93字)

このように解答した児童は、条件②「これから言葉をどのように使っていきたいか」について書くことができています。しかし、条件①a「北川さん、小池さんのいずれかの意見」を取り上げることができず、田中さんの意見を取り上げ、それに対して自分はどう考えるのかについて書いている。

(例②)

- ・ 言葉のひとつひとつに意味があるので、自分が思ったことをすぐ口にするのではなく、それぞれの言葉の意味や使い方などを調べてから使っていきたいと思います。(75字)

このように解答した児童は、条件②「これから言葉をどのように使っていきたいか」について書くことができています。しかし、条件①a「北川さん、小池さんのいずれかの意見」と、条件①b「取り上げたことに対してどう考えるのか」について書くことはできていない。

- 解答類型99の反応率は12.8%である。特徴的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ 本来の意味とはちがう使い方をするのは、あまりよくないと思います。自分が伝えたいことが相手に伝わらないときもあるし、相手がこんらんしてしまうと思います。(76字)

このように解答した児童は、田中さんの意見のみを取り上げて書いている。

本問題全体の学習指導に当たって

本問では、学級において、自分たちの言葉の使い方を見直すために立場を決めて話し合う場面を設定している。計画的に話し合うためには、司会者、提案者、参加者それぞれの役割を捉え、話合いの目的に応じた進行や互いの発言の意図を理解することの大切さに気付くことが重要である。話合い活動の場を多く経験することに加えて、話合い活動を振り返る学習も重要である。

ここでは、本問の【話し合いの様子の一部】を用いて、話合いを振り返りながら質問についてや司会の進め方について、観点ごとに整理する学習活動の例を示す。

なお、設問三に関する、相手の意見を踏まえて自分の考えをまとめる際の指導事例については、平成30年度【小学校】授業アイデア例で示す。

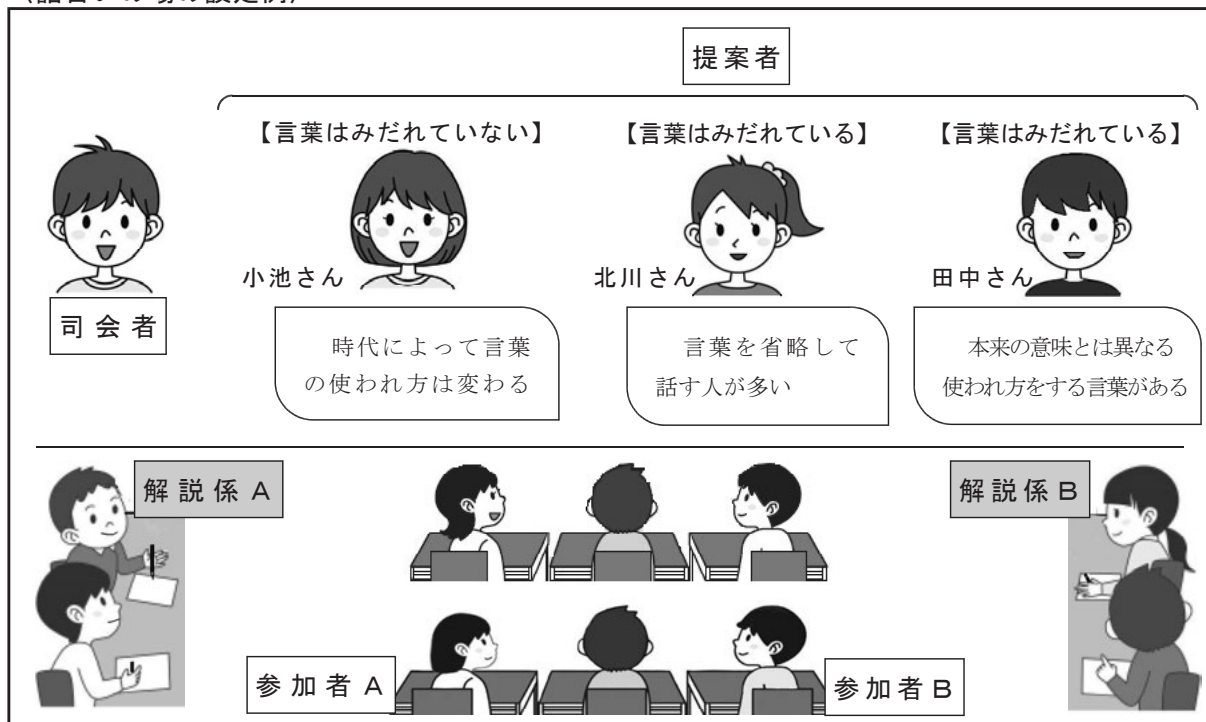
話合いを観点に沿って振り返り、参加者や司会者の役割を整理する

(対応設問：設問一・二)

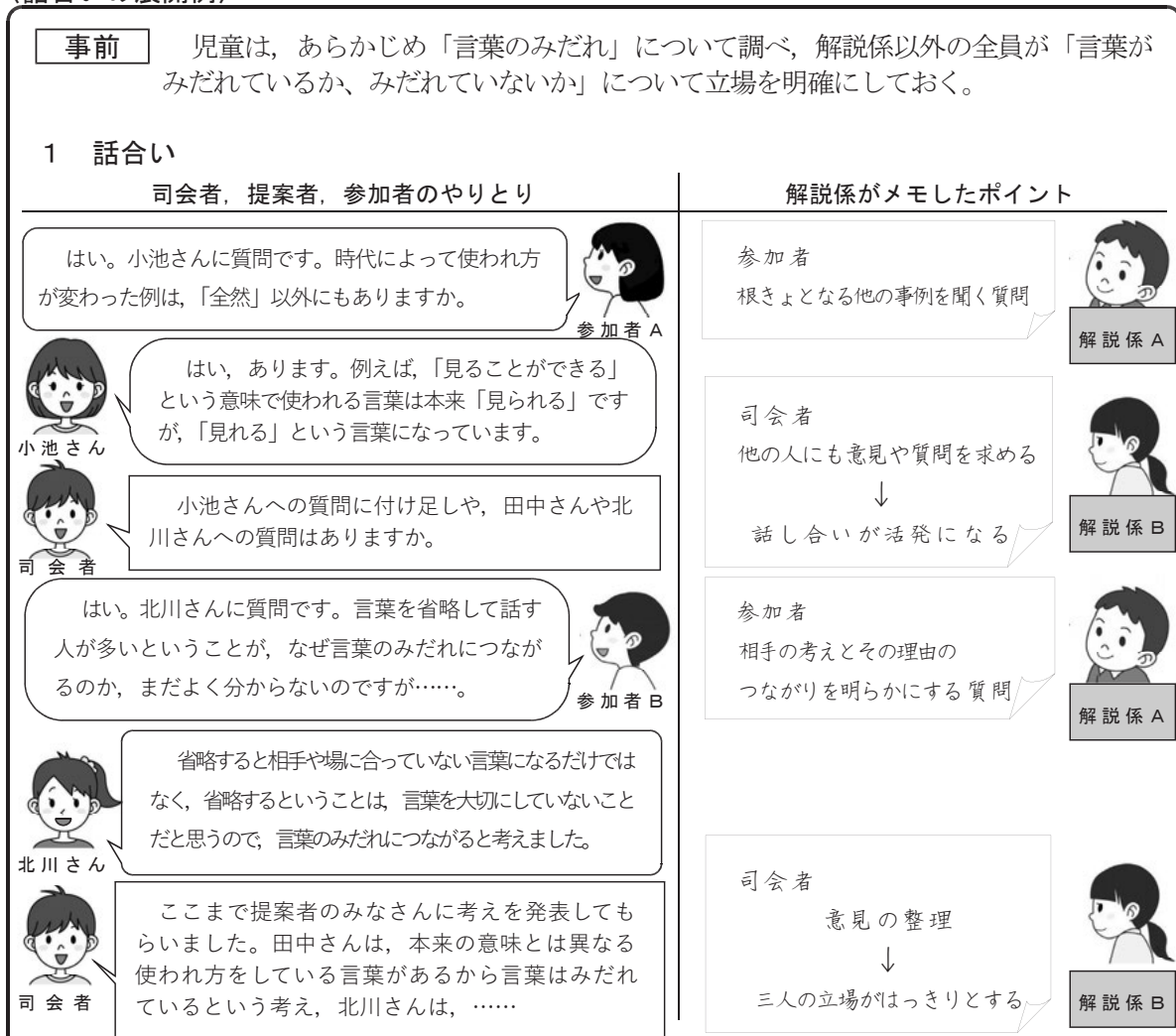
- 次に示す話合い活動では、児童が司会者、提案者、参加者、解説係の四つの役割に分かれて話合いを行う。解説係の役割は、話合いには参加せず、司会者、提案者、参加者の発言について気付いたことを全体に提示していくこととする。解説係の気付きを生かして話合いを振り返り、出されたよい点や改善点、それぞれの役割のポイントを明らかにしていくことを想定している。

なお、学習活動の例では、本問の【話し合いの様子の一部】で司会が「ありがとうございました。それぞれの発表に対して質問はありませんか」と述べ、参加者からの質問を受ける場面から話合いの続きを行うこととする。

〈話し合いの場の設定例〉



〈話し合いの展開例〉



2 振り返り



解説係 A

ぼくは、参加者のみんながどのような質問をしているかに注目しました。参加者 A さんは、**根拠となる事例**が他にもあるかを聞いていました。参加者 B さんは、**考えと理由のつながり**を聞いていました。二人のように、他の根拠となる事例や考えと理由のつながりを聞くと、提案者の考えを十分に理解して、自分の考えと比べることができるなと思いました。



解説係 B

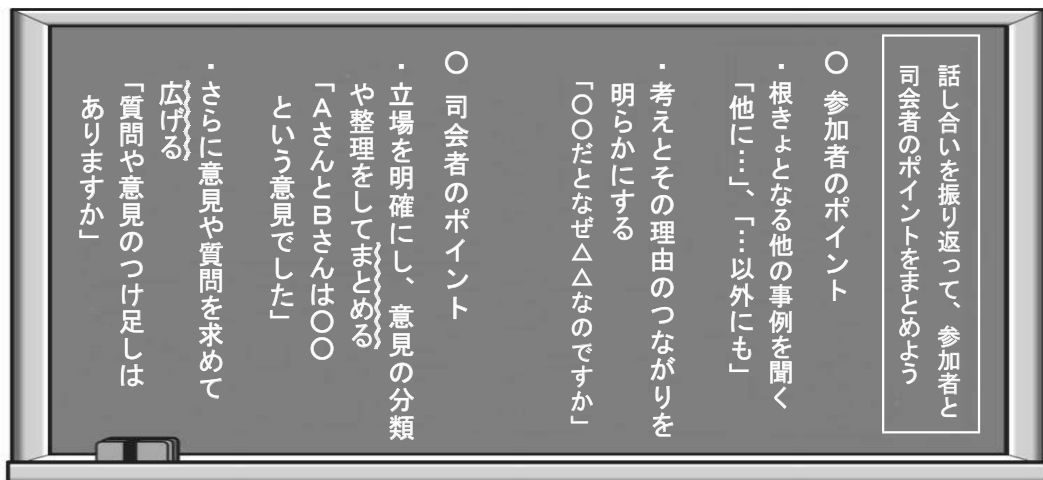
私は、司会者の進め方に注目しました。「小池さんへの質問に**付け足し**や、田中さんや北川さんへの質問はありますか」という発言は、今までの話し合いでは出なかったと思いますが、なぜこのような聞き方をしたのですか。

さらに質問や意見を求めるような聞き方をすると、話し合いが活発になるのではないかなと思ったからです。



司会者

3 学習のまとめ



〈指導する際の留意点〉

- 話し合いの様子を動画に撮り、その動画を示しながら「2 振り返り」のような活動を行うことも考えられる。

(参照)「4年間のまとめ【小学校編】」P. 4～P. 5

※出典等

・文化庁文化部国語課『平成24年度 国語に関する世論調査』(平成25年9月)、文化庁文化部国語課『平成26年度 国語に関する世論調査』(平成27年9月)、文化庁文化部国語課『平成27年度 国語に関する世論調査』(平成28年9月)などを参考にした。

出題の趣旨

目的や意図に応じ、文章全体の構成や表現を工夫して、推薦する文章を書くことができるかどうかをみる。

■学習指導要領に示されている言語活動例との関連

〔第5学年及び第6学年〕 B 書くこと

ウ 事物のよさを多くの人に伝えるための文章を書くこと。

設問一

趣旨

目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考えることができるかどうかをみる。

■学習指導要領における領域・内容

〔第5学年及び第6学年〕 B 書くこと

イ 自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えること。

1. 解答類型と反応率

問題番号		解 答 類 型	反応率 (%)	正答
2	—	1 1 と解答しているもの	10.4	
		2 2 と解答しているもの	57.8	◎
		3 3 と解答しているもの	23.1	
		4 4 と解答しているもの	6.9	
		99 上記以外の解答	0.1	
		0 無解答	1.7	

2. 分析結果と課題

- 解答類型1の反応率は10.4%、解答類型3の反応率は23.1%、解答類型4の反応率は6.9%である。これらは、本問の【おすすめする文章】の構成において、最初の部分に のように書いた理由として、その内容がどのような役割をしているか、またどのような効果があるかを捉えることができなかったと考えられる。

設問二

趣旨

目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書くことができるかどうかをみる。

■学習指導要領における領域・内容

〔第5学年及び第6学年〕 B 書くこと

ウ 事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。

1. 解答類型と反応率

問題番号		解 答 類 型	反応率 (%)	正答
②	二	<p>(正答の条件)</p> <p>次の条件を満たして解答している。</p> <p>① むし歯を防ぐ効果について、【紹介する文章】と【保健室の先生の話から分かったこと】から以下の内容を取り上げて書いている。</p> <p>a よくかむこと</p> <p>b だ液がたくさん出て、口の中をきれいに保つこと</p> <p>② 【おすすめる文章】にふさわしい言葉を用いて書いている。</p> <p>③ 書き出しの言葉に続けて、50字以上、80字以内で書いている。</p> <p>(正答例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (「かみかみあえ」は、)以下、この書き出しの言葉は省略する。) するめが入っていて、よくかんで食べるこんだてです。よくかむため、だ液がたくさん出て、口の中をきれいに保つので、むし歯になりにくいのです。(78字) ・ よくかんで食べるこんだてなので、だ液がたくさん出て、口の中をきれいに保つので、むし歯になりにくいのです。(62字) 		
		1 条件①a, bの両方と、条件②, ③を満たしているもの	13.5	◎
		2 条件①a, bの両方と、条件②は満たしているが、条件③は満たしていないもの	0.0	
		3 条件①a, bは満たしているが、条件②は満たしていないもの *条件③を満たしているかどうかは不問とする。	0.9	
		4 条件①a, ②は満たしているが、条件①bは満たしていないもの *条件③を満たしているかどうかは不問とする。	31.7	
		5 条件①b, ②は満たしているが、条件①aは満たしていないもの *条件③を満たしているかどうかは不問とする。	7.9	
		6 条件①aは満たしているが、条件①b, ②は満たしていないもの *条件③を満たしているかどうかは不問とする。	5.9	
		7 条件①bは満たしているが、条件①a, ②は満たしていないもの *条件③を満たしているかどうかは不問とする。	1.5	
		8 条件②は満たしているが、条件①a, bは満たしていないもののうち、むし歯を防ぐことについて書いているもの *条件③を満たしているかどうかは不問とする。	17.2	
		99 上記以外の解答	18.7	
		0 無解答	2.6	

2. 分析結果と課題

- 解答類型4の反応率は31.7%である。これは、条件①a「よくかむこと」を取り上げて書くことと、条件②「【おすすめる文章】にふさわしい言葉」を用いて書くことはできているが、条件①b「だ液がたくさん出て、口の中をきれいに保つこと」を取り上げて書くことができていない。具体的な例としては、次のようなものがある。

(例)

- ・ 「「かみかみあえ」は、」以下、この書き出しの言葉は省略する。) するめが入っていて、よくかんで食べることがおすすめです。なぜよくかんで食べるのかというと、よくかんで食べるとむし歯になりにくくなるからです。(80字)
- ・ よくかむことで口のまわりのきんにくを動かすことになり、のうの働きが活発になるというよさがあります。(59字)

このように解答した児童は、【紹介する文章】から「かみかみあえ」は、するめが入っていて、よくかんで食べるこんだて」であることを取り上げて書くことはできているが、そのことと関係付けて、【保健室の先生の話から分かったこと】から「だ液がたくさん出て、口の中をきれいに保つ」ことについて取り上げて詳しく書くことができなかったと考えられる。

- 解答類型8の反応率は17.2%である。これは、条件②「【おすすめする文章】にふさわしい言葉」を用いて書くことはできているが、条件①a「よくかむこと」を取り上げて書くことと、条件①b「だ液がたくさん出て、口の中をきれいに保つこと」を取り上げて書くことができていない。具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ きんにくを動かすことで、のうの働きが活発になります。また、まんぷく感が得られ、消化がよくなりうす味にも慣れるので、むし歯になりにくいのです。(80字)

このように解答した児童は、むし歯を防ぐ効果に着目して書くことはできているが、【紹介する文章】と【保健室の先生の話から分かったこと】から、適切な内容を取り上げて書くことができていない。

設問三

趣旨

推薦するためには、他のものと比較して書くことで、よさが伝わることを捉えることができるかどうかをみる。

■学習指導要領における領域・内容

〔第5学年及び第6学年〕 B 書くこと

ウ 事実と感想，意見などを区別するとともに，目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。

1. 解答類型と反応率

問題番号		解 答 類 型		反応率 (%)	正答
②	三	1	1 と解答しているもの	15.6	
		2	2 と解答しているもの	5.7	
		3	3 と解答しているもの	70.9	◎
		4	4 と解答しているもの	4.2	
		99	上記以外の解答	0.1	
		0	無解答	3.4	

2. 分析結果と課題

- 解答類型1の反応率は15.6%である。これは、推薦理由として「ツナマヨサラダ」と比べることで、「かみかみあえ」のよさを理解してもらうということを捉えることができなかったと考えられる。

本問題全体の学習指導に当たって

本問では、給食の献立を取り上げ、各家庭でメニューの一つに加えてもらうために推薦する文章（以下「推薦文」という。）を書く場面を設定している。推薦文では、目的に応じて推薦する事物のよさを捉え、推薦理由を明確にして書くことが大切である。そのためには、構成を工夫したり、他のものと比較して適切な内容を取り上げ、詳しく書いたりすることなどが考えられる。ここでは、本問を活用したこれらの指導の例について示す。

なお、推薦文を書く学習の指導事例については、平成30年度【小学校】授業アイディア例で示す。

推薦する文章の特徴を捉え、文章全体の構成の効果を考えて書く（対応設問：設問一）

- 自分の考えが相手に伝わるように書くためには、文章の種類や特徴を踏まえた上で、文章全体の構成とその効果を考えることが大切である。

推薦文では、推薦したい事物のよさを相手に伝えるために、推薦理由を明確にして書くなどの特徴がある。これを踏まえ、相手に分かりやすく伝えたり、相手の理解を助けたりするための構成をその効果も考えて工夫することが重要である。

ここでは、本問で取り上げた【おすすめする文章】の構成例、及びそれを活用して指導する際の留意点を次に示す。

【本問の構成例】

はじめ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「かみかみあえ」の名前のこと ・ 「かみかみあえ」をおすすめすること ・ 栄養のバランス，いろいろ，おいしさのこと 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 話題提示 ・ 伝えたいこと ・ 概説 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 伝えたいことを述べ読者の理解を助ける ・ 「かみかみあえ」のことを知らない読者の理解を促す
中	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「かみかみあえ」が人気のこんだてであるから ・ 学級で好きなこんだての上位に入っていること ・ 「かみかみあえ」にむし歯を防ぐ効果があるから ・ よくかんで食べると，むし歯になりにくいこと 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 理由① ・ 理由①を説明する事例 ・ 理由② ・ 理由②を説明する事例 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 複数の推薦理由と事例を挙げ，読者に納得してもらう
終わり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「かみかみあえ」をおすすめすること 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 伝えたいこと 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 伝えたいことを強調する

〈上記の構成例を活用して指導する際の留意点〉

推薦文を書くときには，推薦する目的や意図，推薦する相手，推薦理由などを明確にした上で，文章全体の内容や構成を考えることが大切である。本問の推薦文では，次のように考えられる。

推薦する事物 「給食のこんだてのかみかみあえ」

推薦する相手 「おうちの人」

推薦目的・意図 「かみかみあえをおすすめし，おうちのメニューの一つに加えてほしい」

推薦理由 「人気があってむし歯を防ぐ効果もあるこんだてであるから」

また，推薦する相手の立場に立って構成を考えることも大切である。本問では，「はじめ」で伝えたいことを述べて読者の理解を助けている。さらに，給食の献立についてあまり馴染みのない「おうちの人」が読者であることを考え，「かみかみあえ」の名前のことなどについて書くことで理解を促すなど，構成を工夫している。他にも，「終わり」で伝えたいことをまとめて整理して強調し，読者に印象付けるなどの構成も工夫している。

推薦する理由を明確に伝えるために，適切な内容を取り上げて詳しく書く

（対応設問：設問二）

- 推薦理由を明確に伝えるためには，事例を挙げて具体的に説明することが有効である。事例を挙げて書く際には，自分の考えを具体化したり，相手の理解を促したりすることができるかどうかを判断すること，必要な資料を集め，得た情報を適切に関係付けて書くことなどが大切である。また，詳しく書くことで，分かりやすくなることなどを指導することも考えられる。

ここでは，上記の【本問の構成例】の「中」の「理由②」について，事例を挙げて詳しく書くことの学習活動の例を次に示す。

1 キーワードを見付ける

- まず、〈図1〉のように【紹介する文章】、【保健室の先生の話から分かったこと】のそれぞれから、むし歯を防ぐ効果に関係するキーワードを見付け出し、丸や四角などで囲む。

【紹介する文章】

※「するめ」…イカを干した食品

「かみかみあえ」は、するめが入っていて、よくかんで食べるこんだてです。そのため、このような名前がついています。

するめのほかにも、にんじんやきゅうり、もやしなどの野菜が入っていて、栄養のバランスやいろとりも考えられています。

中華風ドレッシングの味やするめのうまみが野菜にしみこんでいます。

【保健室の先生の話から分かったこと】

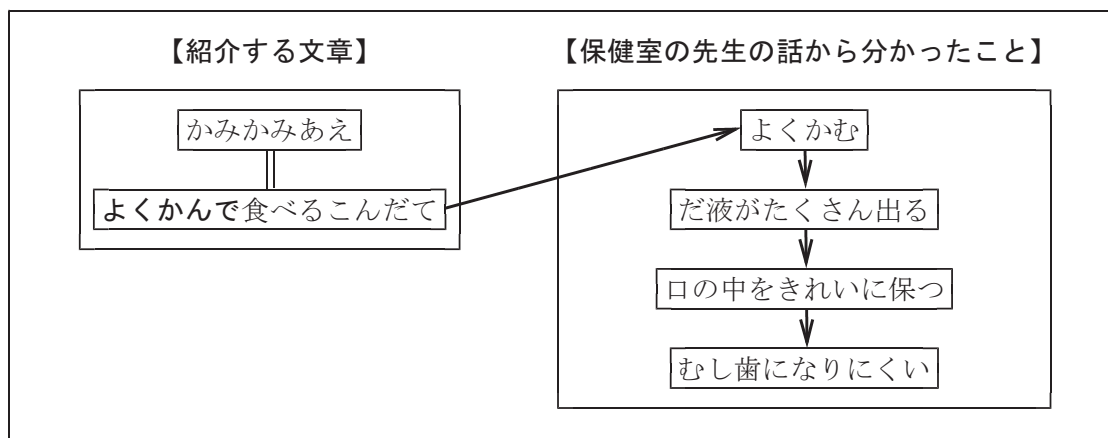
食べ物をよくかむと、

- 口のまわりのきんにくを動かすことになり、のうの働きが活発になる。
- だ液がたくさん出て、口の中をきれいに保つので、むし歯になりにくい。
- まんぷく感が得られ、食べ過ぎにならない。
- 食べ物本来の味が分かるので、うす味の食事に慣れる。
- だ液の量が増え、消化がよくなる。

〈図1〉

2 キーワードを関係付ける

- 次に、〈図2〉のように、キーワードを関係付けて整理し、文章を組み立てていく。



〈図2〉

分かりやすい文章を書くためには、相手に伝わるかどうかという観点で、再度検討したり、友達と相互に吟味し合ったりするなどの活動を取り入れることが有効である。

推薦する事物のよさを伝えるために、他のものと比較して書く（対応設問：設問三）

○ 推薦するためには、その事物についてよく認識し、確かな根拠に裏付けられていることや、他のものと比較してのよさを捉えることができるようにする必要がある。自分の推薦する事物と他の事物を比べることで、他の事物にはないよさを際立たせて伝えることができると考えられる。

本問では、「かみかみあえ」と「ツナマヨサラダ」を比べて、「かみかみあえ」のよさを推薦理由として書く場面を設定している。「ツナマヨサラダ」にはない「かみかみあえ」ならではのよさを書くことで、読者をより強く引き付けているということを具体的に捉え、比較して書くことの効果を実感することができるように指導することが大切である。

※出典等

- ・文部科学省 学校歯科保健参考資料『「生きる力」をはぐくむ学校での歯・口の健康づくり』（2011年3月）などによる。

国語B 3 伝記を読み、自分の考えをまとめる（湯川秀樹博士）

3

山下さんは、日本人で初めてノーベル賞を受賞した湯川秀樹博士について書かれた伝記「湯川秀樹」を読み、最も心がひかれた一文とその一文を選んだ理由をまとめることにしました。次は、山下さんの「ノートの一部」です。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。



【ノートの一部】

湯川秀樹（一九〇七年～一九八一年）

物理学者。全てのものは非常に小さいつぶらでできており、そのつぶに関する新しい考えを導き出した。その後、日本人で初めてノーベル賞を受賞し、戦後の日本に希望をもたらした。

心に残った行動や成しとげたこと	物事への熱中の仕方がすごい。わたしもバズルに熱中することがあるけれど、そんなに長くはできない。
おさないころの湯川博士は、一人で黙々と積み木に熱中していた。長い時間、積み木を重ねたり組み合わせたりして、家や門を作っていた。	続けることは大変だけれど大切だ。わたしは水泳を習っている。やめたいと何度も思ったが、続けたことで、長く泳げるようになった。
A 小学校に入る前から高校のはじめのころまで書道を習っていた。最初は兄弟姉妹の全員が習っていたが、兄たちはいつの間にかやめてしまった。だが、湯川博士は習い続け、様々な書き方を身につけた。	わたしはむずかしい問題は、すぐにあきらめてしまう。湯川博士はなぜそこまで夢中になれるのだろう。
数学によって考えることの喜びを教えられた。むずかしい問題に出会うとファイトがわき、夢中になって解いた。夕食を知らせる母の声も耳に入らず解いていた。	湯川博士も苦しいと思うときがあったということにおどろいた。
大学を卒業した後にも引き続き大学に残り研究を続けたが、なかなか成果を出すことができなかった。研究の見通しがつかず、苦しい日々が続いていた。	一度始めたことはなかなかやめないという湯川博士のことをよく表している。
B 家族から外国への留学をすすめられた湯川博士は、自分の仕事を一つ上げた上でなければ、外国へ出かけたくなないと断った。自分の力で、やれるところまでやってみよう。何度失敗してもよいと考えた。	
C 最も心がひかれた一文とその理由	

【自伝「旅人」の一部】

(湯川秀樹「霧人 ある物理学者の回想」による。)

- 1 湯川博士が自分自身をどのように思っていたのか。
- 2 湯川博士がどのような書き方を身につけたのか。
- 3 湯川博士がどのような研究に取り組んでいたのか。
- 4 湯川博士の兄弟姉妹はどのような様子だったのか。

山下さんは、最も心がひかれた一文として、
 選びました。そして、「フートの一部」の **㊦** を書くために、もう一度伝記「湯川秀樹」を読み返しています
 次の【伝記「湯川秀樹」の一部】を読み、 **㊦** の に入る内容を、おどの条件に合わせて
 書きましよう。

【伝記「湯川秀樹」の一部】

秀樹は、大学を卒業した後も引き続き大学に残って研究を続けたが、なかなか成果を出さず、研究の見通しがつかず、秀樹にとっては苦しい日々が続いていた。研究の分野で新発見が相次いでいた。そのころの世界では、秀樹が取り組んでいる研究の分野で新発見が相次いでいた。研究の見通しがつかず、秀樹にとっては苦しい日々が続いていた。

昼夜を問わず、秀樹の頭の中には研究のことがあった。ふとんに入ってからでも研究のことを考え、次々にうかんできくるアイディアをわすれないために、まくらもとにはノートを置くようにした。そして、アイディアを思いつくごとに電灯をつけてノートに書きこむようにし、ねばり強く考え続けていた。秀樹は、だれも知らない、真実を探ろうとしていたのである。

【C】最も心がひかれた一文とその理由

この言葉は、自分の仕事を一つ仕上げた上でなければ、外国へ出かけたたくない、と留学の話を断ったときの湯川博士の言葉である。湯川博士はおさないころから、積み木に熱中したり、書道にしん

ほう強く取り組んだり、一度始めたことを最後までやりとげようとしていた。

また、

また、

これらのことから、「自分の力で、やれるところまでやってみたい。」という一文は、ねばり強く物事に取り組む湯川博士のことをよく表していると思った。

わたしは、勉強やスポーツに取り組んでいるとき、とちゅうで
あきらめてしまうことがある。これからは湯川博士のように、
ねばり強く最後までやりとげるようにしていきたい。

〈条件〉

- なぜ「自分の力で、やれるところまでやってみたい。」という一文に心がひかれたのかを考えて書くこと。
- 「伝記『湯川秀樹』の一部」から言葉や文を取り上げて書くこと。
- 書き出しの言葉に続けて、六十字以上、百字以内にまとめて書くこと。なお、書き出しの言葉は字数にふくむ。

※左の學級用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。

※●の印から書きましょう。とちゅうで行を変えないで、続けて書きましょう。

ま た 、 ◆

100字 60字

出題の趣旨

伝記を読んで、心に残ったことについて自分の考えをまとめることができるかどうかをみる。

■学習指導要領に示されている言語活動例との関連

〔第5学年及び第6学年〕 C 読むこと

ア 伝記を読み、自分の生き方について考えること。

設問一

趣旨

目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読むことができるかどうかをみる。

■学習指導要領における領域・内容

〔第5学年及び第6学年〕 C 読むこと

イ 目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率 (%)	正答
③	1 1 と解答しているもの	49.6	◎
	2 2 と解答しているもの	14.8	
	3 3 と解答しているもの	12.4	
	4 4 と解答しているもの	19.9	
	99 上記以外の解答	0.1	
	0 無解答	3.2	

2. 分析結果と課題

- 解答類型2の反応率は14.8%である。この中には、「書道」という言葉に着目し、【ノートの一部】のA, 【自伝「旅人」の一部】の内容と選択肢2「湯川博士がどのような書き方を身につけたのか」とを結び付けて捉えた児童もいたと考えられる。
- 解答類型3の反応率は12.4%である。この中には、「研究」という言葉に着目し、【ノートの一部】に書かれている「ノーベル賞」や「物理学者」、「博士」などの言葉と選択肢3「湯川博士がどのような研究に取り組んでいたのか」とを結び付けて捉えた児童もいたと考えられる。
- 解答類型4の反応率は19.9%である。これは、【ノートの一部】のAについて、もっとくわしく知りたいことがあったので、【自伝「旅人」の一部】をさらに読む、という目的を十分に捉えることができなかったと考えられる。この中には、「兄弟」という言葉に着目し、【ノートの一部】のAや【自伝「旅人」の一部】に書かれている「兄弟姉妹」、「男の兄弟たち」などの言葉と選択肢4の「湯川博士の兄弟姉妹はどのような様子だったのか」とを結び付けて捉えた児童もいたと考えられる。また、【ノートの一部】のAと【自伝「旅人」の一部】を比較して読み、【自伝「旅人」の一部】に書かれている、湯川博士自身がどのように考えていたのかを捉えることができなかった児童もいたと考えられる。

設問二

趣旨

目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むことができるかどうかをみる。

■学習指導要領における領域・内容

〔第5学年及び第6学年〕 C 読むこと

ウ 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりすること。

〔第5学年及び第6学年〕 B 書くこと

ウ 事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率(%)	正答
③ 二	(正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 ① なぜ「自分の力で、やれるところまでやってみたい。」という一文に心がひかれたのかを考えて書いている。 ② 【伝記「湯川秀樹」の一部】から言葉や文を取り上げて書いている。 ③ 書き出しの言葉に続けて、60字以上、100字以内で書いている。 (正答例) ・ (「また、」以下、この書き出しの言葉は省略する。) 湯川博士は大学を卒業した後も、昼夜を問わず研究のことを考え、ふとんに入ってから次々にうかんでくるアイディアをわすれないために、まくらもとにはノートを置くようにしていた。(88字) ・ ふとんに入ってから研究のことを考え、次々にうかんでくるアイディアをわすれないために、まくらもとにはノートを置き、アイディアを思いつくごとにノートに書きこんでいた。(85字)		
	1 条件①, ②, ③を満たしているもの	52.5	◎
	2 条件①, ②は満たしているが、条件③は満たしていないもの	1.4	
	3 条件①は満たしているが、条件②は満たしていないもののうち、【ノートの一部】の「心に残った行動や成しとげたこと」や【自伝「旅人」の一部】から言葉や文を取り上げて書いているもの *条件③を満たしているかどうかは不問とする。	7.4	
	4 条件①は満たしているが、条件②は満たしていないもののうち、【ノートの一部】の「心に残った行動や成しとげたこと」以外の言葉や文を【ノートの一部】から取り上げて書いているもの *条件③を満たしているかどうかは不問とする。	0.1	
	5 条件②は満たしているが、条件①は満たしていないもの *条件③を満たしているかどうかは不問とする。	5.5	
	99 上記以外の解答	21.4	
	0 無解答	11.8	

2. 分析結果と課題

- 解答類型1の反応率は52.5%である。具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例①)

- ・ (「また、」以下、この書き出しの言葉は省略する。) 昼夜を問わず、ふとんの中でも研究のことを考え、アイデアを思いつくたびにわすれないように用意したノートに書きこみ、ねばり強く考え続け、だれも知らない真実をさぐろうとしていた。(90字)
- ・ 湯川博士は、ふとんに入ってから、次々にうかんでくるアイデアをわすれないようにまくらもとにノートを置いていた。アイデアを思いつくごとに電灯をつけて書きこむようにしていた。(90字)

このように解答した児童は、なぜ「自分の力で、やれるところまでやってみたい。」という一文に心がひかれたのかについて、【ノートの一部】の[C]最も心がひかれた一文とその理由の第二段落の「湯川博士はおさないころから、積み木に熱中したり、書道にしんぼう強く取り組んだり、一度始めたことを最後までやりとげようとしていた」という記述に着目し、【伝記「湯川秀樹」の一部】の中から、湯川博士の具体的な行動を取り上げて書いている。

(例②)

- ・ 大学を卒業した後も、引き続き大学に残って研究を続けたが、成果を出せない苦しい日々が続いていた。しかし、昼夜を問わず研究のことを考え、だれも知らない真実をさぐろうとしていた。(89字)
- ・ 湯川博士は大学を卒業した後も大学に残って研究を続けたが、なかなか成果を出すことができなかった。けれども、湯川博士はねばり強く考え続けて、だれも知らない真実をさぐろうとしていたのである。(95字)

このように解答した児童は、なぜ「自分の力で、やれるところまでやってみたい。」という一文に心がひかれたのかについて、【伝記「湯川秀樹」の一部】の第一段落に書かれている言葉や文を中心に取り上げて書いている。

- 解答類型3の反応率は7.4%である。具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ 湯川博士は、むずかしい問題に出会うと、ファイトがわき夢中になって問題を解いた。夕食を知らせる母の声も耳に入らず解いていた。(64字)

このように解答した児童は、なぜ「自分の力で、やれるところまでやってみたい。」という一文に心がひかれたのかについて書くことができていない。しかし、【伝記「湯川秀樹」の一部】から言葉や文を取り上げて書くことはできていない。【ノートの一部】の「心に残った行動や成しとげたこと」や【自伝「旅人」の一部】から言葉や文を取り上げて書いている。

- 解答類型99の反応率は21.4%である。これは、なぜ「自分の力で、やれるところまでやってみたい。」という一文に心がひかれたのかについて書くこと、また、【伝記「湯川秀樹の一部」】から言葉や文を取り上げて書くことができていない。特徴的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ わたしはピアノを習っているが、練習してもなかなか上手くできないときにとちゅうであきらめてしまうことがある。だから、わたしも湯川博士みたいに最後まであきらめない、ねばり強い人になりたい。(95字)

このように解答した児童は、具体的な叙述を取り上げずに、「自分の力で、やれるところまでやってみたい。」という一文や、湯川博士の行動や考えに対する自分の考えを書いている。

本問題全体の学習指導に当たって

本問では、湯川博士について書かれた本を読んで最も心がひかれた一文を選び、その理由を書く場面を設定している。伝記を読んで、自分の考えをまとめるためには、描かれた人物の生き方について、自分が感銘を受けたり、心がひかれたりした行動や業績に関する叙述に着目しながら読むことが大切である。その際、複数の伝記を比べて読んだり、自分の経験や考えなどと比べて心がひかれた理由を明確にしたりする学習が考えられる。ここでは、これらの指導の例について示す。

なお、伝記を読む学習の指導事例については、平成30年度【小学校】授業アイディア例で示す。

目的に応じて、複数の本や文章などを選んで効果的に読む（対応設問：設問一）

○ 高学年になると、本を中心とした資料から、新聞や雑誌、インターネットなど、情報収集の範囲やその活用方法が広がっていく。そのため、目的に応じて適切な本や資料を選んだり、効果的な読み方をしたりすることが重要である。

伝記には、書き手が第三者であるもの、身近な人であるもの、本人であるものなど、様々なものがあり、書き手によって、人物の取り上げ方が異なっていたり、同じ出来事についてもその捉え方や描写が異なっていたりする。これらの特徴を踏まえ、本問のように、目的に応じた適切な伝記を選んで読んだり、複数の伝記を比べて読んだりすることが大切である。また、それによって人物の生き方や考え方をより深く知ることができるということについて指導することも大切である。

伝記では、その人物の功績が本の題名とともに副題として書かれているものや、年表や逸話が見出しとなっているものもある。実際の本を見せながら、どこにどのような情報が、どのような書かれ方で載っているのかを示したり、見出しに着目するなど効果的な読み方をしている児童の読み方を具体的に紹介したりすることも大切である。

「複数の本を手にする指導に当たって」

伝記は物語や詩のような行動や会話、心情などを基軸に物語る文学的な描写と、事実の記述や説明の表現が用いられる。また、書き手によって同じ人物、同じ事実でも捉え方が異なるなど、様々なものがある。

複数の本や文章を読む中で、児童から生まれるそのような気付きを広げ、その面白さを共有することが「もう一冊読んでみようかな」、「全部読むのは難しいけれど、気になった部分だけでも他の本ではどのように書かれているのか見てみようかな」といった主体的に本を読もうとする姿につながると考えられる。複数の資料を手にする児童を育成するには、低学年のころから意図的に複数の文章を読む状況をつくり、「二冊目を読んだら分かった」、「知りたいことについてもっと詳しく知ることができた」などの経験を積み重ねていくことが大切である。



複数の資料を比べて読む低学年の児童

目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む

(対応設問：設問二)

- 目的に応じて文章の内容を的確に押さえるためには、何のために、何を知りたいのか、どのような情報が必要なのか、という目的を明確にした上で、全体の構成を把握しながら読むことが大切である。また、自分の考えを明確にするためには、必要な叙述を選び、他の部分に書かれている叙述と比べたり、自分の知識や経験、考えなどと関係付けたりしながら自分の考えをまとめていくことが大切である。

伝記を読む際にも、目的を明確にした上で、全体の構成を把握し、描かれた人物の行動や生き方と、自分の経験や考えなどとの共通点や相違点を見付け、共感するところや取り入れたいところなどを中心に考えをまとめることができるようにする。

具体的には、本問のように、なぜその一文に最も心がひかれたのか、人物の具体的な行動や言葉など、根拠となる叙述を取り上げて、その理由を説明できるようにすることが大切である。また、気になるところを読み返し、他の部分に書かれている叙述とも関係付け、取り上げた人物の生き方についての理解を深めるとともに、自分の考えも深めながらまとめることができるようにすることも考えられる。

「様々な伝記」

伝記には、大人を対象としたような文章で描かれているものの他に、児童を対象としているものなど様々なものがある。例えば、描かれている人物の功績などをクイズ形式にまとめたもの、いくつかの場面を漫画で描いたものなどがある。

また、伝記に描かれている人物の活躍した分野は多岐にわたっており、科学者や発明家などをはじめとして、昨今では映画俳優やファッションデザイナー、企業家、スポーツ選手などが取り上げられている。

このように、伝記は、描かれ方にも取り上げられている人物の分野にも様々なものがあり、児童一人一人の興味・関心に幅広く応えることができる。

※出典等

・【ノートの一部】と【伝記「湯川秀樹」の一部】は、湯川秀樹『旅人 ある物理学者の回想』（1960年1月 株式会社角川学芸出版）、二反長半『伝記文庫・D-19 湯川秀樹』（1994年3月 株式会社ポプラ社）、プロジェクト新・偉人伝 著作・編集『この人を見よ！ 歴史をつくった人びと伝27 湯川秀樹』（2010年2月 株式会社ポプラ社）などを参考にした。

・【自伝「旅人」の一部】は、湯川秀樹『旅人 ある物理学者の回想』（1960年1月 株式会社角川学芸出版）による。

